

特274

509

昭和二年度分

文部省検定試験
家事裁縫科問題

解答集

第五册



0043963000

0043963-000

特274-509

文部省検定試験家事裁縫科問題
解答集

渡辺女学校出版部・編

渡辺女学校出版部

第5册（昭和2年度分）

昭和3

AHE



4124
509

緒言

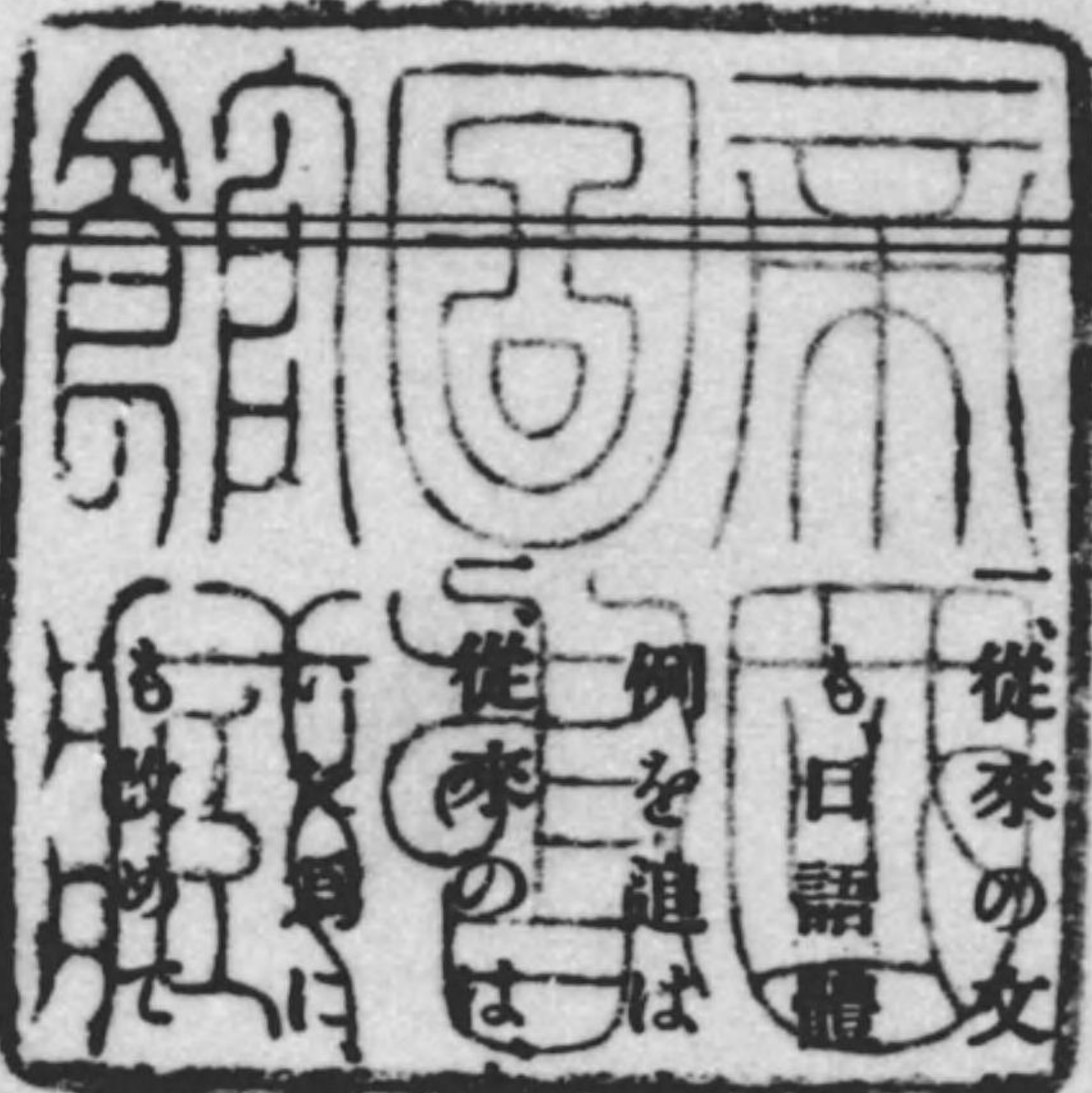
一、本書は従来発行せる家事裁縫科問題解答集の續編にして、昭和二年度に於ける、豫備本試験、國民道德要領、教育大意の問題解答を包含する。

従來の文體は、最初のものに倣ひ、文章體であつたが、今日は實際の答案も、口語體で差支なく、且世上一般の書物が、多くさうなつて來たから、前例を追はり、口語體に改めた。

従來のは、上として問題に就いて讀者の了解し易からしめるやうに書かれたる時間内には書き得ないやうに、長かつたが、これも改めて、大体時間内に書き得る程度にした。然し多少讀者の了解の爲に斟酌をしたことは勿論である。

一、本書を読むものは、矢張り前數年間の分に涉つて讀んで置く必要がある。單に一、二年分を見たのでは試験の實際は分るものではない。

一、従來一ヶ年づつを増補として、毎年刊行して既に四冊を發行し今回第



五冊を出版したのであるが今後毎年一冊づつ発行する豫定であるから既刊のものと共に愛読せられんことを希ふ。

昭和三年七月

編者識す



文部省教員検定試験
家事科問題 解答集 (昭和二年度)

目次

一	昭和二年度家事科豫備試験	一
一同	同 本試験	四
一同	裁縫科豫備試験	七
一同	同 本試験	九
一同	國民道徳要領	一三
一同	教育大意	一七

文部省教員検定試験
家事裁縫科問題 解答集

家事科豫備試験問題

問題 一、高等女學校生徒ニ教フベキ衣服經濟ノ要項及び其ノ内容ノ大略ヲ示セ
解答 生活費中最も膨張を來し易きは衣服費にして殊に近年衣服はますます華
美に成り行く。然しながら生活を簡易にし經費を節約すると云ふ上からも衣
服は身分相應の品位を保つことを限度として出来る丈節約することが必要
である。今其の要項及び内容を擧ぐれば

一、住居の改善と俟つて漸次洋服になすこと

洋服は和服に比し服種が少くてすみ、數量も少くてすみ且又仕立換
の手數を要せぬ

二、服種數量の制限

我が國は地勢の關係によりてか服種が餘りに多きに過ぐるが故に

種類を單衣袴羽織位に止め体温調節は洋式下着を用ふるれば仕立の手数を省き布を節約し得る。又數量が餘りに多く袴幾枚羽織何枚を誇りとして、外出の度に取り換へては得意然としてゐるが、品位を保ち得る範圍に數量を制限する時は、經濟であり又仕立換への時間をも節約し得る。

三、裁ち方の改良によりて布地の節約を計る。

和服の裁ち方は傳統的の習慣を其のまゝにして改良少く裁ち方の工夫によりて出来る丈縫込などの不用部分を省き布を節約する事

四、廣幅物切り賣り制度にすこと。

日本婦人が袂の丈を一寸短かくすれば外債を拂ひ得る等云ふが、現在の如き小幅物、一反賣にては其所に工夫の餘地も少く節約の効も少し廣幅物は輸出向生産能率が上ることは別としても裁ち方の工夫によりて布地の節約が出来切り賣り制度などは必要の量を求め得る。

五、染色地質の堅牢なるものを選ぶこと。

物の經濟にはあらざるも和服に用ふる布は、染色地質共に弱く縫ひかへし染め換へを要し、家庭の婦人の勞力の大半はこれに費さるゝ現狀なり、今後の和服に於ては地質染色の共に堅牢なるものを選び、婦人の勞力と時間とを節約し、他の有効なる方面に利用すること肝要なり。要するに衣服費の膨張を來すや否やは家事經濟を司る主婦の腕に俟つものなれば、主婦たるものは心して衣服費の節約をなし將來に備ふること必要なり。

問題二 住宅ノ敷地選定ノ要件ヲ擧ゲテ之ヲ説明スベシ。

解答 敷地選定の要件を左の五ヶ條を擧げて説明します。

1. 衛生上

- (イ) 適當の廣さを有し高燥にして地盤堅固なる處を選ぶべく、濕潤なる抵地、窪地等は宜しからず。
- (ロ) 空氣の清潔なる所を選ぶべし。煤煙塵埃等の飛散し又は臭氣の發散する所は宜しからず。故に工場避病院火葬場等の附近は避けなければならぬ
- (ハ) 水質佳良にして給水排水共に完全な所を選ぶべし。

- (ニ) 適當の空地あるをよしとす。空氣は家の肺臟とまで云はれて居る。
 - (ホ) 南面の開放せられた地でなくとも空の光を充分に利用せられ即ち空の角度の大にして、それを遮る物の無き處。
- 之を要するに良き水と空氣と日光を充分に得られると云ふ事が最も肝要である。

● 經濟上

- (イ) 自己の職業に適切便利なる所
- (ロ) 物價は勿論地代家賃低廉にして且つ日用品の購入に便利なる所。
- (ハ) 水道瓦斯電氣の設備の有無は經濟に關係する所頗る多し。故に此點にも注意を要す。

3. 教育上

- (イ) 環境の良否は子女の教育上に大なる關係あり。劇場、寄席、活動寫眞、料理屋

貧民窟等の附近又は風紀悪しき場所は避けなければならぬ。

- (ロ) 學校、圖書館等教育的施設完備し通學に便なる地をよしとれども通學距離の餘り遠き所、途中危険なる場所ある所は避けなければならぬ。

4. 交際上

- (イ) 身分及び生計の程度に應じ一家の品格を保つにふさはしき所を選ぶべし。
- (ロ) 親戚知人と往復訪問し交情を温むるに便なる位置を占むるを要す。
- (ハ) 交通便にして趣味、娛樂の機關の整へる所を選ぶべし。

5. 警備上

- (イ) 水難、火難、盜難の少き地を選ぶべし。
- (ロ) 地質は堅牢なる所、崖上崖下又は地盤弱き所は地震、暴風雨に際して崩壞の危険あり。海岸川岸の低地は海嘯洪水の虞あり。
- (ハ) 隣家と隔絶せる所は盜難の危険あり。
- (ニ) 火藥庫、花火工場の附近は火災にかゝり易いから避けねばならぬ。

問題三 人造絹絲織物ノ得失ヲ舉グ其鑑別法及ビ洗濯法ヲ記セ。

解答 第一、得失

- 1、價廉なり。一見縮緬の如き性質で縮緬ならば一反二三十圓位に見える物でも十圓以内で買へる。
- 2、光澤よろし。之は特長で而して缺點である。即其光澤強過ぎる爲却つて野卑なる感あり。
- 3、濕潤の時には甚だしく強さを減じ又延びる事大にして、弾性の際限を越し易き爲一度延びたる物は再び元の如くならぬ。然し近年製造法の改良と共に此の如き缺點は次第に除去せられつゝあり。

第二、鑑別法

人造絹糸も其製造法の異なると共にそれ〴〵性質を異にするが最もまぎらはしき生糸又絹織物との鑑別法を記す。

1、物理的。

- (イ) 光澤 〳〵表面だけで反射する量多く爲に甚だ光澤強い。



(ロ) 手觸り堅い。

(ハ) 絹鳴り 〳〵人絹には無し。

(ニ) 濡らす時 〳〵甚だしく延びて弱くなる。

2、顕微鏡検査

- (イ) 之は一般に明でないが然し明に鑑別し得る場合がある。

3、燃焼試験

(イ) 人絹は燃え移る性あれ共、絹では此性無く而して燃えた時巻き縮みて木炭の小塊を残して消え、同時に一種の悪臭を放つ。

4、化學的検査法

(イ) アルカリによる検査 〳〵5%内外の苛性曹達液で煮る時は絹は除々にとけ、人造絹糸は全くとけない。

(ロ) 硫酸銅と少量のグリセリンと苛性曹達の水溶液に入れる時は絹は常温で除々に溶け、温めると速に溶け、人絹に於ては變化なし。

(ハ) 染色による検査 〳〵動物性纖維だけ染まる染料では人絹は染らない。

5. 紫外線に依る鑑別

(1) 紫外線に當て、鑑別する方法もある。

第三、洗濯法

1. 性質上濕式洗濯は可成避けたいし、之地質を弱らしむる爲である。
2. 止むを得ぬ爲濕式洗濯をしても堅く絞るが如きは永久の延びを來すから避けねばならぬ。

然し現今は製法改良せられた爲之等の洗濯にも丈夫なる物が出來たとの事である。

故に靜に洗ひ、洗ひ終つたならば其儘絞らないで乾燥する。

3. アイロンはぢかに當てぬ法よろし。

4. 石鹼はマルセーユ石鹼がよろし。粗惡のものは光澤を損ず。

5. 高温の液で處理する時は光澤を失ふ。

6. 乾すに平板を用ひてする方よろし。

問題四 灌腸ノ種類及ビ目的ヲ記シ灌腸器使用上ノ注意ヲ述ベヨ。



解答 灌腸ノ種類

灌腸法とは治療上の目的を以て薬を肛門よりさし入れる方法で、これに催下灌腸法と滋養灌腸法との二種がある。

催下灌腸法とは便秘したる糞便を通ずる目的のため施す方法である。微温湯に石鹼をとかしたる液又は、食塩水或はグリセリン等を注射する。

滋養灌腸法は衰弱せる重病者に對し肛門より牛乳鶏卵等を注入してその營養を吸収せしむるものである。

使用上の注意

灌腸器には水銃、スポイト、イルリガートル等がある。灌腸の際は褥上に油紙或は護謨布を敷く方がよい。

灌腸器の嘴管にグリセリン若くは石炭酸軟膏或はオリーブ油を塗つて挿入を滑かにする。

挿入する時は靜かに廻轉しながらなすこと。使用後は充分消毒し、次回に直に使用し得られる様になしおく。

灌腸後直に藥液のみを排出することのない様に看護人は、患者の肛門を静かに、カーゼ又は脱脂綿でおさへて十五分位の後差し込み便器を入れて排出せしめる。

問題五 ソックスレット氏牛乳消毒器ニ就テ知レル所ヲ述ベヨ。
解答 一構造

御飯蒸の如き構造にして其の中に數本の瓶を立つ。瓶には度盛をなし蓋はゴムと金とを用ふ。

二、用ひ方

全乳の消毒に用ふ時は牛乳瓶のまゝ入れて消毒す。但し普通の場合には人工哺乳兒の牛乳消毒に用ひらる。其の方法は牛乳を生後の日數に應じて、適宜に薄め、一回量を一瓶に入れ蓋をなし一日分又は半日分位の瓶數になして低に水を入れて熱する時は蒸氣消毒をなすことを得。其のまゝ冷却し冷蔵函又は其の他の冷所に貯へおく時は、夏日と雖も腐敗することなし。

三、特徴

全乳は一度消毒して配達されたるものなるが故に消毒の必要殆どなし。されど小兒に與ふる牛乳には水を加ふる故に再度消毒の必要あり。一回分宛間接消毒をなし適當の溫度まで冷して用ふるが理想的なれども手数を要し蓋を取りたる全乳の残りの處理にも困るが故に、一度に數回分宛消毒しおく時は手数を省き蓋を取らざれば一日位腐敗することなければ安全に哺乳し得るものなり。

問題六 榮養ノ方面ヨリ見タル米ニ就テ述ベヨ

解答 米は皮膜・胚乳・胚の三部より成り胚乳は膠質層と澱粉層とに分る。

玄米を搗く時に胚が抜け落ち皮膜と膠質層とが脱離して糠となる。糠には蛋白質・脂肪・纖維灰分等の成分が多く胚は蛋白質・脂肪・ビタミンに富むも共に脱離する故白米はビタミン・纖維灰分・蛋白質に乏しくなる。

白米には澱粉多く蛋白質は量は少なきも良質である。

白米の組成は米の種類により又精白度により異なるも精白すればする程蛋白質・脂肪・纖維灰分・ビタミンは比較的減り澱粉は割合に増す。

今白米と精白麥との組成を比較して見るに其の百分比組成次の如し。

	水分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒物	粗纖維	灰分
白米	一四・一九	八・〇五	〇・六二	七六・二一	〇・二二	〇・七一
精白麥	一二・三五	九・九七	一・三六	七三・二七	一・六四	一・四一

この表で見ると如く白米は精白麥よりも粗纖維蛋白質少く澱粉が多い。白米飯は米の種類炊き方炊いて後の時間により組成は一定しないが米よりは水分が増し全体の三分の二を占むる。白米飯は主として澱粉より成り蛋白質は比較的少く脂肪は更に微量である。灰分も同様少く磷酸に不足する虞がある。ビタミンは無論缺乏する。

白米飯は大体に於て消化良きものであるが消化率は無論米の精白度炊方により多少異なる。又澱粉の消化は最良いが蛋白質の消化は餘り良くない。灰分少き故に腎臓病患者の食餌に適する。

滋養率は蛋白質一につき十三位で非常に廣いものである。今白米飯とパンとを比較するに白米飯は前述の如く六〇%以上を含めども麵麩は三〇%位で

ある。蛋白質の量や消化は麵麩に劣るも蛋白質の種類が違ひその栄養價値は麵麩に勝る。

玄米は粗蛋白質粗脂肪粗纖維多くビタミン灰分にも富んで居る。

玄米の百分組成は米の種類により一定はして居ないが

水分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒物	粗纖維	灰分
一三・二	八・八	二・二	七三・四	一	一・三

である。

玄米飯は糠にある養分やビタミンを利用し得れども粗纖維が多い故消化が悪く。即消化率の比は白米のものを百とすれば九二である。

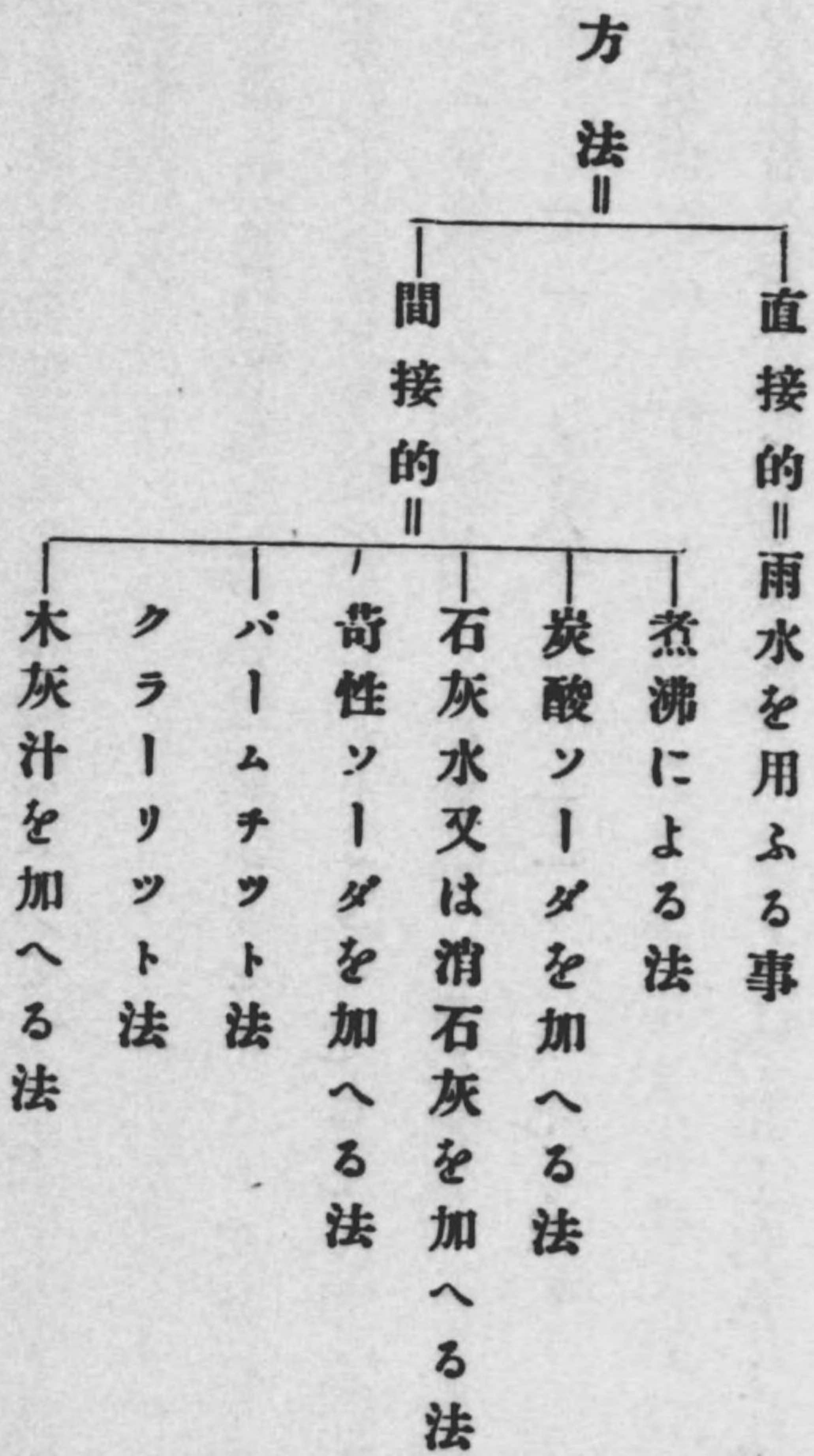
米のビタミン窒素磷酸の減少を防ぐため精白度を減じ半搗米として用ゆることあり。

半搗米は玄米より粗纖維少なければ消化は玄米よりもよいが白米には勿論劣る。然し半搗米には胚が多少残ればビタミンや蛋白質を多く存する利益がある。

白米を食する時必ず副食物を添へて蛋白質灰分ビタミン等の不足を補ふやうにしなければならぬ。

家事科本試験問題

問題 軟キ洗濯用水ヲ得ベキ方法ヲ列舉シ且之ヲ略述セヨ。
解答



洗濯用水として軟水を得べき方法は大体以上の方法あり以下之等につき略述せん。

1. 雨水を利用する事

雨水は天然の蒸溜水で殆んど純粹なものと見られる。勿論最初に降り来るものは空氣中の塵埃アンモニア炭酸ガス等を含出して居るけれどもこれ等は洗濯には何等の影響もない。

雨水はこれを使用に臨みて常に利用せんとすれば特別の装置を必要とし降雨の場合に自然的に水槽に貯水される様にしなければならぬ。然らざる時は之を得るためには直接雨の降る場合に之を集める必要がある。ので時を限らず雨水を要求することは困難なり。

間接的

これは人工的に硬水を軟化せしむる方法にして左の如き諸法あれども要するに可溶性の塩類を不溶解性の塩類として沈澱せしめ除去する方法である
2. 煮沸による法

煮沸により軟水とする方法は硬水の内の一時の硬水と呼ばれる、即ち重炭酸カルシウム $\text{Ca}(\text{HCO}_3)_2$ 又は重炭酸マグネシウム $\text{Mg}(\text{HCO}_3)_2$ を含むものを軟化する方法で煮沸すると今まで水によく溶けて硬水の原因となつて居たそれ等の物質が水に溶けない炭酸カルシウム CaCO_3 又は炭酸マグネシウム MgCO_3 となつて容器の底に沈澱するから其の上澄み液は軟化されて居るわけである

化学變化次の如し



3. 炭酸ソーダを加へる法

硬水には一時の硬水の他に硫酸カルシウム CaSO_4 や硫酸マグネシウム MgSO_4 を含む永久硬水と呼ばれるものがある。これは單なる煮沸にて軟化せぬ所からかく名づけたもので此の永久硬水に炭酸ソーダを加へると左式に示す様な化学變化によつて今まで水にとけて居た硫酸カルシウムや硫酸マグネシウムが水にとけない炭酸カルシウム又は炭酸マグネシウムとなつて器底に沈むから其の上澄液は軟水なり。



又炭酸ソーダは一時の硬水に加へても重炭酸カルシウム又は重炭酸マグネシウムを不溶性の炭酸カルシウムや炭酸マグネシウムとして沈澱するから此の場合にも軟化される理である。

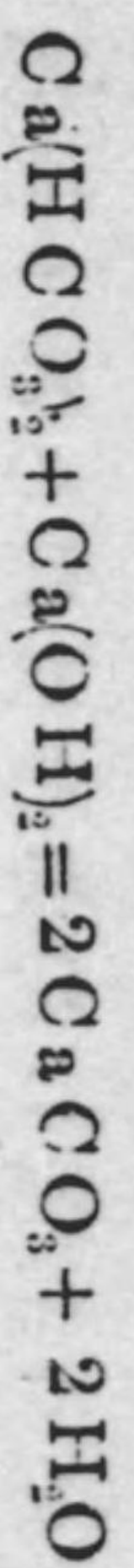


炭酸ソーダを加へて軟化する事は少くとも數時間乃至一晝夜位で其作用完結するものであるから急を要する場合には沸騰水に加ふるをよしとす。尙風呂水等に少量の洗濯曹達を入れる事はその洗濯作用を大いに助けるものである。尙粉石鹼等を用ふる場合に洗濯ソーダと石鹼の使用は何れか先でなければならぬといふ事が無い様に考へるけれ共實驗上先づ炭酸ソーダを加へ然る後石鹼を加へる法はその利目が大である。

3. 石灰水又は消石灰を加へる方法

一般に一時の硬水の軟化に利用する方法で其の硬度に應じたこれ等の物質の適量を硬水に加へて一晝夜位も静置しておけば其の間に化学變化が行は

れ其上澄み液を軟水として利用するのである。



即ち酸性炭酸カルシウムが不溶性の炭酸カルシウムと變つて沈澱するから軟化される理である。

4. 苛性ソーダを加へる方法

此の場合に於ては一時の硬水も永久の硬水も其の苛性ソーダの適量を加へたる時は軟化されるのである。

まづこれが一時の硬水の成分たる重炭酸カルシウムに作用してこれを軟水に變へ同時に生じた炭酸ソーダは永久硬水の成因たる硫酸カルシウムに作用して軟水になるのである。



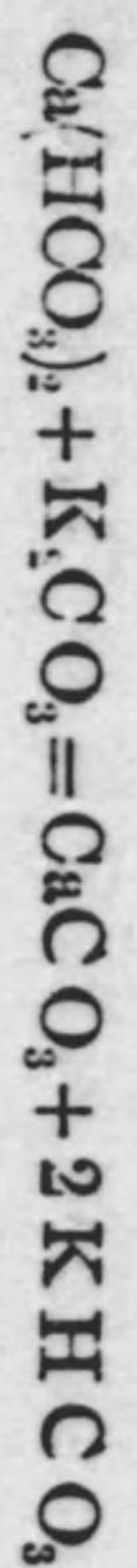
従つて苛性ソーダは一時の硬水と永久の硬水を同時に軟化するが苛性ソーダの分量は適量以外を超えぬ様注意すべきである。

5. バームチット法 クラリソット法

何れも濾水器の中にバームチット又はクラリソットと稱する薬品を装置し水をそれ等の層を通す間に硬水の含有するカルシウム分やマグネシウム分を化學的にバームチットやクラリソットのもてるナトリウムと交換して軟水に變へる方法である。

6. 木灰汁を加へる方法

草木の焼灰は一〇%内外の炭酸カリウム(K₂CO₃)を含んで居るからこれを軟水中に投じて浸出すると水中に溶けた炭酸カリウムは一時の硬水及び永久の硬水に作用してこれを軟化せしむる事は丁度炭酸ナトリウムの軟化の場合と同様である。



一時



永久

各種軟化法に對する所見

以上の如く種々の軟化法あれども經濟上からは雨水を利用することが最も

理想であるが最も簡短に行はれる軟化法は炭酸ソーダを用ふる方法であらう。

洗濯水として多量に用する場合に於て煮沸法は他の藥品を用ふる場合より燃料の消費代に多額を要する關係上經濟的に劣るものである。まして用水は一時の硬水に限らざるに於ておや、従つて炭酸ソーダは此の点に於ては安全にして經濟上から云つても安價に且つ家庭には洗濯劑として常に使用されて居るにより使用上からも便利である。又消石灰或は石灰水を用ふる方は永久の硬水には利用し難きと硬度に應じる適量に注意しなければならぬ点と軟化時間が非常に長く要する点とに於て家庭的には推奨すべきでない。

又苛性ソーダは一時も永久も同時に軟化するも其の分量は適量以外を超えぬ様硬度測定に注意を加へねばならぬ点に於て工業的には推奨すべきも家庭的には炭酸ソーダに劣ると考へてよからう。

又バームチット法、クラリット法は最近家庭用としての小型の装置もある

事なれば之等を利用するのも一法であらう。猶一定の間使用して効を失つたバームチット及びクラリットは食塩水に投入して暫時放置せば効力を恢復することが出来るから可なり便利な原理に立脚して考案されたものである。

又木灰汁を用ふる方法は最も古くから行はるゝ原始的な洗濯水の軟化法なれども化學の原理に立脚して居る事は他の藥品を用ふると同様である。されば草木を燃料として居る土地に於ては其の木灰を巧みに利用する事も經濟上甚だ賞すべき事と思ふ。

尙茲に注意したきは軟化劑を用ひて軟化を行ふ場合には軟化劑を入れたからとて即時軟化される理ではなく相當の時間を必要とし殊に石鹼を使用する場合は完全に軟化されて後でなくてはならぬ。然らざる時は軟化の効を奏する事能はず。

問題二、煮ルト揚ゲル(脂油ニテ)トノ異同ヲ述ベヨ

解答 煮ると揚げるとの異同は各々其の特徴をあげ其の理由を物理的見解を

以て説明せん

煮る方

特徴の一

水の沸騰点百度で煮物は熱をあたへられる事
物を溶かして居る液体の沸騰点は其の溶し得る物質の種類及び量によつて
僅かではあるがそれ／＼違ふのである。

其の溶かされたる物質が例へば種々の液体の如く、氣化し易いものである時
には沸騰点の昇降については一概に云ふことは出来ないが、食塩とか砂糖と
かの如き不揮發性の物質の溶けたる場合に於ては其の沸騰点は純なる液体
のそれよりも高くなるが通例である。

其の高まり方の程度は濃きもの程著しい。

又粥味噌汁等の如き塩化カルシウムの含まれ居るものに於ては沸騰点は高
きものと想像されるが實は澱粉の如き或は又蛋白質の如きは所謂膠狀溶液
と稱する一種特異の溶液を作るものであつて沸騰点の昇りは非常に僅かな

ものであるが如く我等の日常煮物料理法なるものは大体に沸騰点は攝氏百
度或は百度僅か超過する位の程度に止るのである。従つて其の煮物は其の液
の沸騰点に於ける温度の熱をあたへられて居る。

特徴の二

温度一定なること

煮物に於ては其の液体の沸騰点に達し沸騰をはじめたる以上は火勢を如何
に強くすると其の沸騰点より以上に昇る事なく、又火勢を如何に弱むると
も苟も沸騰のつゞかざり沸騰點以下に下る事もないのである。

それ故に煮ると云ふ手續は常に同一の物理的條件に於てこれを行ふ事に別
段の苦心もなく又特別の手續も必要とせぬものである。

これ温度一定不變なるによる。

注意すべき点

煮物に於ては特徴二の如き物理的條件に支配されて居るから非常に氣樂な
料理法なり。

たゞ茲に注意すべきは時間の關係である故に煮物の性質によりて其の繼續時間を了解し居る時は殆んど仕損じなきものと心得てよし。

さればこそ卵は何分で煮て何分で半熟であると云ふことが火勢の如何を度外視するもこれを豫定し得るのである。

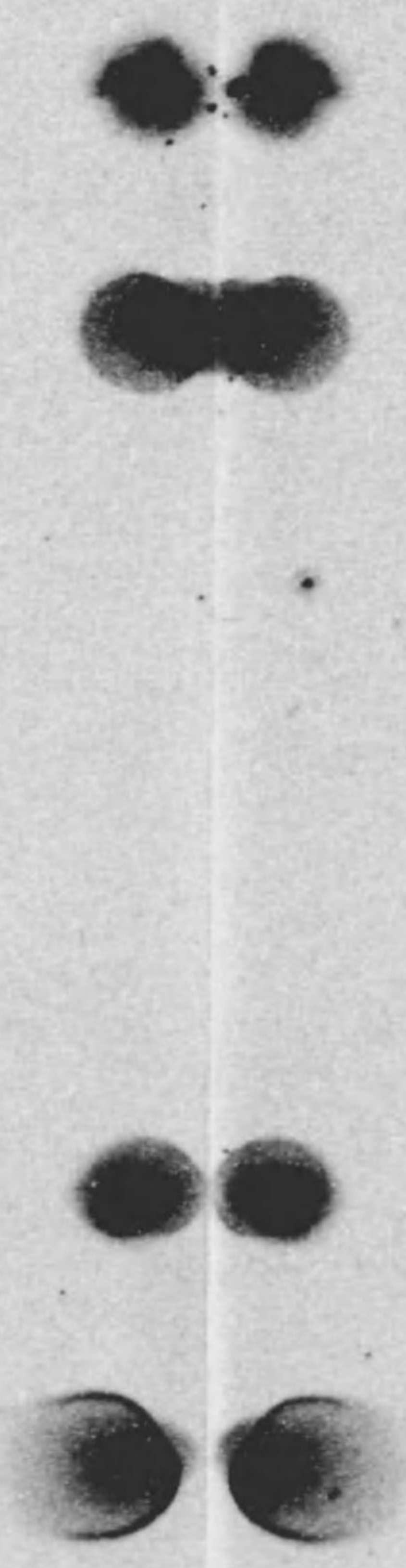
然し飯炊きに於ては同じ煮物でも其の水加減温度時間に特別の注意を要するのであるから其の概略を説明せん。

水加減については煮るに用ひる水の全部が丁度よく米の内部に吸収し盡される程でなければならぬ。

温度については煮ると云ふ仕事なれば左程に心配する必要はない故水の沸騰するまでは火勢を強め沸騰の後は大いに火勢を弱くする。

これは温度の下降を目的とするのでない事は煮物料理の特徴によりて明かなり。

かくて約六分を経過すれば米粒は水分を吸収しこれからは最早煮ると云ふ意味から離れて寧ろ焼くと云ふ仕事になつて來るので更に一段火勢を弱め



ねばならぬ。

次に時間であるが飯が炊けたと云ふことは單に米粒が煮えたと云ふ事ではなくして米の内外が一樣に水分を含みて一樣な軟かさになると云ふ事である。して見れば之に相當の時間のかゝるべきは當然豫想される。此の時間が水分が殆ど吸収されてから少くとも十五分は經過しなければ安心が出来ぬ。

揚げる方

特徴の一

脂油の沸騰点は非常に高き事

脂肪と呼ぶるものは其の沸騰点が攝氏の三百度を越ゆる位の高い温度であるから沸騰しつゝある油の中に食物を投入すれば忽ちに之を焦がす心配があるのみでなく油と云ふものはこれを熱して百八十度邊に達すれば分解を始めて其の表面から煙をあげ温度の高くなる程分解が著しくなるのであるから眞に沸騰せる油は盛んに煙を放ち其の煙が甚だ引火し易いので危険である。

此の煙と云ふのは脂油の分解物にして其の中にはグリセリンの分解より來れるアクロインと稱する不快な強き臭氣のガスが含有されて居る其の臭氣は油のこげる匂ひとして吾々の能く知る所なり。

世間では往々此の煙の出始めた時を沸騰した時と解釋すして居るものが甚多いのである。

しかしそれは大いなる誤解にして通例揚げ物と云ふ仕事は沸騰せる油で物を煮て居るのではない。

物の焦げると云ふ事は百五十度以上で行はれる事から云へば揚物料理法は一種の焼物と云ふ事が出来る。

實は其の食物中の水分が沸騰せる如く見ゆるのである。

特徴の二

温度一定不變のものではない事。

油の沸騰点は三百度位のものなれば加熱の盛んなる時は忽ちにして沸騰点にまで達する事があり得るのである。よし又沸騰点に達したる油の中に揚物

を入るれば其の温度は直に著るしく下降するもので實際外部の火に依つて其の熱を補給するのでなくば油の温度は急激に下り百度近くになる事はあり得るのである。之即ち其の揚物中の水分が水蒸氣に化するため氣化の潜熱と云ふて多量の熱を要するので周圍の油から盛んに熱をとりつゝあるからである。

注意すべき点

かく料理の温度が不定であると云ふ事から見ればこの料理法に於ては煮物とは趣を異にして油の温度と云ふ事が特に注意を要すべき要素である。

揚物の温度は大抵攝氏百五十度から百九十度位の範圍にあるべきが適當なり。此の温度を簡單に見るには煙を發した時食塩を少量入れて若しパチツと音をたてたならば大抵百五十度以上の温度になつて居ると見てよい。

百五十度以下になれば物の揚げ方がおそいのみならず物は揚がつて居ても少しも焦げ色を呈せぬ。又永く油の中に置く爲漸次焦げ色を呈するも其の色は甚だ悪しき色となる。

又百九十度を超える時には煙が多くなつて引火の危険が増し且つ水分の盛んに蒸發するため細かい油の跳飛ぶより来る油の消耗量が多くなるばかりでなく甚だ危険性を帯びてくる。

同時に中に入れられる物は表面の衣の炭水化物或は衣に限らず表面の蛋白質が急激に焦がされ結果は甚だ不良になる。

但し揚げられる品物の含む水分の多少によつて適當なる油の温度が異なつて居る。水分の多きものは百九十度に近い方がよろしく水分に乏しいものは百五十度に近い方が強く揚げる心配がない。

又油多量なれば概して温度の高低の差は小なれども油で揚げる場合には常に其の温度をためし同一の温度を保つ爲に揚物を入れる時引あげる時等に注意し加熱の加減をせざるべからざる所に揚物料理は非常なる手腕を要するのである。

栄養及び味の問題

食品の中には水溶性ビタミン・灰分・水溶液性蛋白質などの成分もある事な

れば煮物の例として行はれる燂でると云ふ事は其の燂で湯をすてるとすれば栄養上不合理なる操作なりと評すべきは勿論である。

但し此の場合に於てはそれがために著しく味の改善を得らるゝ等重大なる理由あるに於ては此の限りにあらず汁を得るを主眼としての煮物料理法を除く他は汁はなるべく少くして完全に煮え得る程度に最初より液の加減をなす事が必要である事等は全く揚物と趣きを異にする所なり。

揚物に於ては多少水分の沸騰と共に養分が注出する事は勿論なれども燂で物料理をなすほど栄養上不経済ではない。しかし消化の上から考へれば油の多量にしみ込みたるものは勿論適當の分量の油を吸収して居る揚物に於ても不消化なものである。

故になるべく油を切る様な方法も兼ねて一回に揚げる數全部が同一の結果を得る様考案されたのが改良せる揚物鍋である。

次に味の問題であるが煮た場合には只その物に物理的の變化を與へて柔くするだけの事であるが揚げ物に於ては第一化學的變化を與へ幾分焦し第二加

ふるに一種の油の味即ち揚げ味を附する二つである。

煮ると揚げるとの燃料消費について

尙茲に注意したき煮物は前述の如く物理的條件のもとに行はれるのであるから火力は沸騰点に達したならば大いに減少する事が出来るが揚物に於ては百五十度乃至百九十度に達する迄は火力を減ずる事が出来ず又揚物を入れたる後も加熱を必要とする爲燃料の消費は煮物の如く少くはすまないがいづれにしても燃料の經濟的使用法に意を用ひざるべからず即ち出來得るがぎり空気を少くして完全燃焼をなさしめ有効熱量を大ならしむるは勿論各種料理に於ける物理的原理を了解し最も合理的にして經濟的なる使用法は燃料問題解決の一助となるであらう。

此の点よりドイツ國人ユンカー博士はガス使用を最も合理的ならしむべく考案されたのがユンカーガス七輪なり。即ち火勢の大なるを必要とする時例へば沸騰点に達するまでの間は最大火勢を以てするを必要としガスは兩噴出口より噴出して燃焼し小なる火を必要とする時即ち沸騰後たゞ其の沸騰

の繼續を要望する時に於てはガスは中央に於ける小さき一噴出口より噴出する様になつて居る事に感心せざるを得ないのである。

出來得べくんば我が國にもユンカーガス七輪の使用の普及を望む。

問題三 廣サ二坪二合五勺ノ台所ニ流シ煮炊台及戸棚ヲ都合ヨク配置シ尙戸棚ニツイテハ其ノ構造ト分品整理ノ方法を述ベヨ。

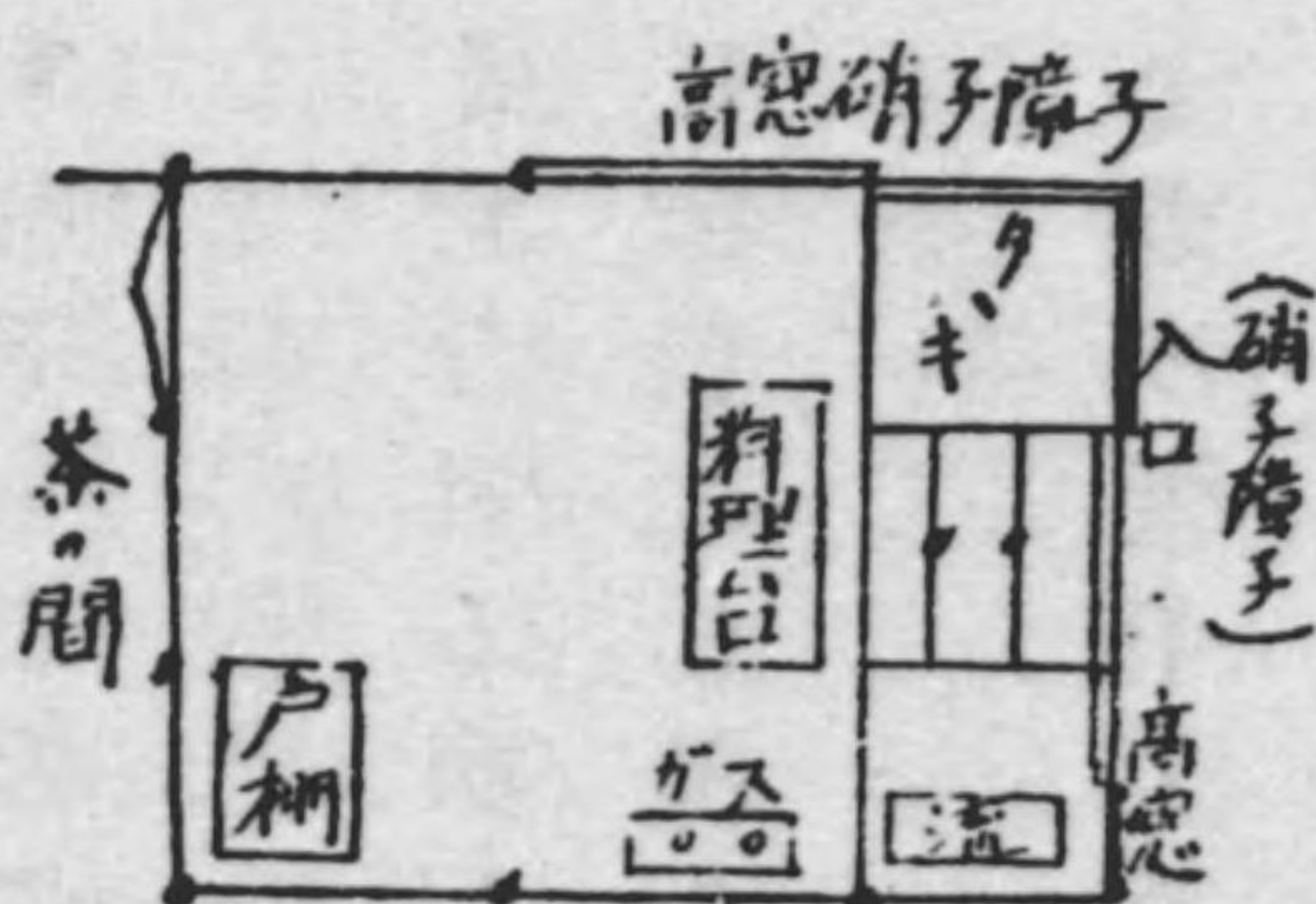
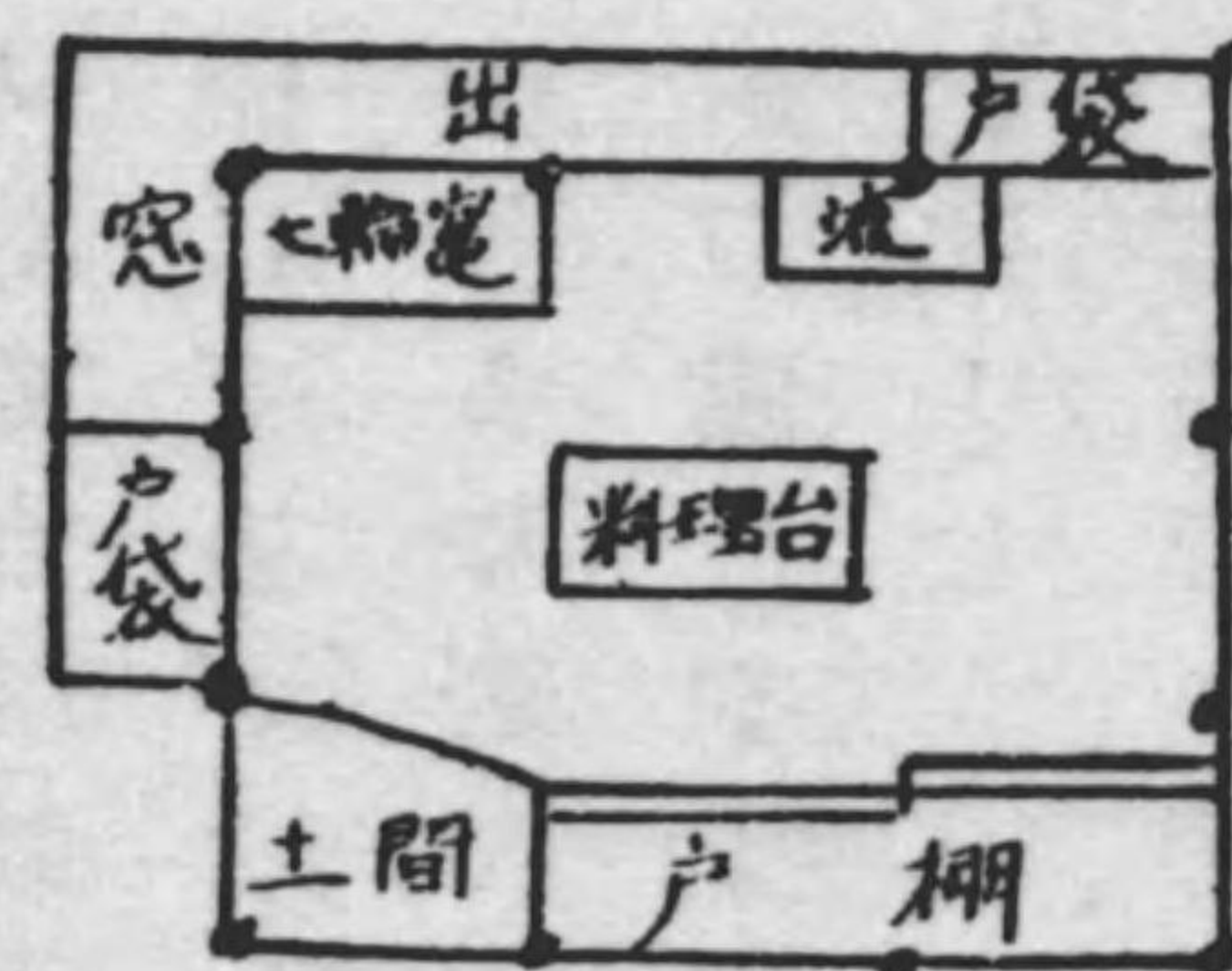
解答

台所は一家族の生命を維持する處の食物を調理する處であるから衛生的設備を完全にすることが最も必要である。台所の位置としては東南の向きにとるのを最も理想とすれども出來なければ東のみ又は東北の二方光線をとる様にすることがよい。若し光線の射入少き時には食品の鑑別、料理の善悪、食器の清潔なるや否やをよく見分ける事が出來ないのみならず、水を多く使用するから日當り悪しくは、微菌類の繁殖早く隨て乾物類に黴を生じ庖丁、鉄物類が赤錆となりマッチも濕りて用をなさず、自然不衛生、不經濟になる。

次に問題の二坪二合五勺の台所の設計圖を示さん。

構造の概略

床は板張とし總て板の間の上で用を辨する様にする。板の間には揚板を設ける野菜薪炭類の貯藏所とするのはよろしいけれどもほこりが上の方にふき上げられる恐がある。



壁は羽口板張として拭掃除に便ならしむるのもよいが尙出來得るならば清潔を主として白い壁又はタイル張にするのがよい。屋外に對する周圍には出窓を設け又は天窗を設け何れも鉄格子を取付け開閉自在の摺硝子戸をはめ換氣採光を充分にする事が必要である。又設備をなすには可成立働式とし水平に身体を動かす様にするのがよろしい。しやがみ式にする時には裾が御馳走にふれたり、一々立ち据りするので面倒である。

以上の外に尙注意すべき事は便利なること即勞力少く用を辨するといふ事と掃除に便なる様になす事と、絶えず火を使ふ處であるから火災の危険の少い材料を用ひて作るといふ事である。

流しは人造石、陶石で作るのが最もよい。然らざる時は亞鉛張として流しの下には棚を設け、櫛鉢、鍋、ざる等を入れる様にす。幅は一尺五寸、長さは二尺五寸高さも二尺五寸位とす。水道の蛇には流し臺より一尺二寸位の高さになす。水の排泄には亞鉛管を用ひて土管を通じさせ、汚物の停滯しない様にす。ガス七輪台は幅一尺五寸、長さ三尺位とし火の用心の爲にブリキ又亞鉛板をはるのがよい。

料理臺は木製にして長さ二尺五寸、幅一尺五寸、高さ二尺五寸とし引出しは兩面から使へる様にしておくと便利である。その中には箸又庖丁の類を入れておく。

そして下には蔬菜入を設け、野菜類のしほるゝ事を防ぐと共に簡單なる冷蔵箱をつくりて、夏使用するのも一案であらう。

戸棚は壁の一方にそふて置戸棚とするも、つくりつけとするも隨意である、大きさは臺所の廣さに相當したものを川普通間口六尺とし奥行は深いと掃除が不便のみならず従來の戸棚の如き深さを必要とせず會席膳の入るに差支なき程度即一尺五寸内外とし幾段も棚を設けてその中に納むべき器の高さに應じて棚板の高さを上下し得らるゝ様になしおくがよい戸棚はまづ之を上下の二段に分ち下段には硝子戸をはめ内部のよく見える様にし主として味噌、醬油等の調味料を入れ、他の残りの部分には平常用ひない様な品を納めておく。例へば客用のもの又正月用のもの等上段は之を又二三段に分ち皿、茶碗鉢井等それ〴〵高さのなるべく等しいものを一まとめにして一つの段に並べる様にす。直接調理の品を入れる部分には網戸を用ふる様にし蠅入らずに利用するのよい。

要するに戸棚は物品の出し入れに便利なる様又内部が絶えず清潔に保たれる様に分品を整理する事が肝要である。

問題四 間食ニツイテノ意見ヲ述ベヨ

解答

我々は普通三度の食事でありるのであるが兒童に於ては成長發育が旺盛で運動も亦盛んであるから体軀の割合に大人より多量の食物を要するのである。然も彼等の消化器官は未だ小く且纖弱であるから一日の所要食量を三度に限り攝取する事が不可能故間食が必要となつて來るのである。

兒童に適當なる間食は榮養上から之をみた時には蛋白質の多く含む處の食物をあたへるのがよい。蛋白質は消化吸収されそれが筋肉並に諸器官の構成に役立つから成長しつゝある兒童に於ては適當なる榮養素である。しかし又之を健康上から見た時には、蛋白質は澱粉質に比して、比較的胃に長く停滯するものであるから、次の食事に差支へる様な事があると却つて間食本來の目的を失ひ、榮養上にも有害なる結果をうむ故、その点に注意してなるべく胃の消化が早くて榮養になる様な間食をあたへる事が必要である。

胃に停滯しない様な食物としては炭水化物に富める芋類、パン、ビスケット及び砂糖類である。又水分にとめる果實等も間食に適するが未熟のもの又は過熟のものはあたへない方がよい。

運動をした後には、兒童は必ず間食を要求する。その時は相當の空腹を感じてゐる時であるから、制限なく與ふる時はかなりの大量を要し次の食事の妨げとなり、結局一日の栄養量に不足を來す事になる。間食は單に定食を補ふに止まるものであるから大量をあたへる必要はない。又間食は時を定めてあたへる様努めなければならぬ。あたふる時を一定にしないと有害である。學齡兒童には午後三時頃一回でよい。學齡前兒童には午前十時頃今一回あたふる必要がある。

兒童以外に必要なを感ずるのは老人と病人である。老人は一つは娛樂的に一つは栄養上に必要なのである。老人になると段々消化吸収する力が衰へ、齒はぬけてかむに困難になり胃腸の働きは緩慢になり従つて消化し易いものを攝取する様になる。それには含水炭素質のものが一番よい。消化も割合によく体温活動力の素にもなる。

病人はその病氣によつて一樣には云はれぬが消化器系統の患者であつたら

成るべく與へないがよい。又病人は一度に多量を與へると消化困難となる故少量づゝ數回に分けてあたへる事が必要である。

問題五 左ノ條件ニ於テ合理的生活ヲ營ムニ要スル最少限度ノ生活費ヲ見積リ詳細ニ其ノ見積リノ根據ヲ説明スベシ。

- 一、俸給生活者 一、家族夫婦子供三人何レモ十歳以下
- 一、場所 随意 但シ地名ヲ附記スベシ

解答

家族 夫婦

子供 長女 九歳

長男 七歳

次女 四歳

場所 東京

内 譯 數 費用(一年間)	長女ノ部	手袋	一	一枚(三年間)	二〇〇
		ショール	一	一枚(三年間)	三〇〇
		傘	一	一本(三年間)	三〇〇
		半衿	二	二枚掛	二〇〇
		長襦袢	二	二枚(三年間)	三〇〇
		袷物	一	一枚(二年間)	一〇〇
		單着物	一	一枚	五〇〇
		袷物	一	一枚(二年間)	一〇〇
		羽織	一	一枚(五年間)	二〇〇
		其他			二〇〇
		合計			五〇〇

内 譯 數 費用(一年間)	長男ノ部	下着類	一	用布綿ネル天竺	三〇〇
		靴下	一	打	五〇〇
		靴	二	足	一五〇〇
		帽子	二		三〇〇
		手袋	一		一〇〇
		ハンカチーフ	一	打	一〇〇
		スエター	一	着	三〇〇
		夏服	一	着	二〇〇
		冬服	一	着	六〇〇
		外套	一	着(二年間)	四〇〇
		其他			二〇〇
		合計			四五〇〇

内 譯 數 費用(一年間)	猿股	五	一枚	二〇〇
	ズボン	三	一枚	三〇〇
	シャツ	五	一枚	五〇〇
	ワイシャツ	二	一枚	六〇〇
	カラ・カフス	四		三〇〇
	手袋	二		五〇〇
	靴下	一	打	六〇〇
	靴	一	足	一五〇〇
	帽子	二		七〇〇
	ハンカチーフ	一	打	一五〇
	ネクタイ	二	本	四〇〇
	冬服	一	着(三年間)	二〇〇
	夏服	一	着(二年間)	一五〇〇

内 譯 數 費用(一年間)	主婦ノ部	間服	一	着(五年間)	一〇〇〇
		外套	一	着(三年間)	一七〇〇
		袷物	一	着(二年間)	一五〇〇
		傘	一		五〇〇
		其他			九〇〇
		合計			一三五〇〇

内 譯 數 費用(一年間)	襦袢	三	枚	三〇〇
	腰巻	三	枚	三五〇
	足袋	五	足	一五〇
	下駄	二	足	三〇〇
	ハンカチーフ	半	打	一〇〇

内	コ	猿	ツ	シ	シ	靴	靴	朝	手	夏	冬	外
内	コ	猿	ツ	シ	シ	靴	靴	朝	手	夏	冬	外
譯	シ	股	下	下	下	下	下	子	袋	服	服	套
數	一	三	二	三	一	一	二	二	一	一	一	二
費用(一年間)	一・五〇	一・〇〇	一・五〇	二・〇〇	三・〇〇	五・〇〇	一・二〇〇	二・〇〇	五・〇〇	三・〇〇	六・〇〇	三・〇〇

内	靴	靴	下	靴	靴	手	夏	冬	外
内	靴	靴	下	靴	靴	手	夏	冬	外
譯	靴	靴	下	靴	靴	手	夏	冬	外
數	二	二	半	二	二	一	一	一	二
費用(一年間)	一・五〇	三・〇〇	一・五〇	二・〇〇	三・〇〇	一・五〇	一・五〇	二・〇〇	二・〇〇

合	共
計	他
二七〇〇	一・〇〇

冬	外
冬	外
服	套
一着(二年間)	二着(二年間)
六・〇〇	三・〇〇

合	共
計	他
二七〇〇	一・〇〇

食物ノ部
 小供三人ハ大人二人分
 月收二百五拾圓一日一人當リ五十二錢保健食量献立例

時	朝	晝
時	朝	晝
献	味	生
立	味	生
材料	味	生
分量	味	生
温量	味	生
リ	味	生
カ	味	生
ロ	味	生
價	味	生
格	味	生

夕	煮	里	パ
夕	煮	里	パ
春	付	芋	タ
豆	人	三	一
菊	十	個	夕
少	九	五	一
々	六	〇	八
一	〇	〇	〇
七	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
三	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
七	〇	〇	〇

朝		時		分日一		ツヤオ		蘇ノモノ	
味噌汁	味噌	米	砂糖	柿	柿	蘇	蘇	蘇	蘇
七夕	七夕	三合	五勺	二枚	一個	一個	一個	一個	一個
四六九	四六九	一七二〇	二〇〇〇	一四〇〇	一〇〇〇	〇・八	〇・八	〇・八	〇・八
〇・五	〇・五	一五・五	四・六	一・〇	三・〇	〇・五	〇・五	〇・五	〇・五

一日 總温量 二五〇四・一カロリー
 一日 價格合計 五拾二錢
 月收百五拾圓以下一日一人當
 リ三十七錢保健食量献立

夕		晝		ツヤオ	
薩摩汁	薩摩汁	秋刀魚	大根	密柑	密柑
牛肉	牛肉	新漬	新漬	同	同
十夕	十夕	六夕	六夕	一個	一個
一〇〇〇	一〇〇〇	二六六〇	四〇〇	一五〇〇	一五〇〇
一〇〇	一〇〇	三・〇	〇・三	一・〇	一・〇

分日一		其	
麥飯	麥飯	調味料	調味料
三合五勺	三合五勺	砂糖	砂糖
一六六・〇	一六六・〇	醬油	醬油
一二・六	一二・六		
		一〇〇・〇	一〇〇・〇
		四・〇	四・〇

一日 總温量 二五〇九九カロリー
 一日 價格 三十七錢

住居の部

月收二百五拾圓

二〇%五拾圓を住居費とす

その中四拾圓乃至四拾五圓を家賃とし残金を家具什器の費用とす

家賃四十圓——四十五圓に於ては山手方面或は電車の便十分な府下に於て

は水道瓦斯付の次の如き家を借りられる。

間敷及使用方法

八疊 居室として又は一家團樂室として使用し老人小供の寢室に當てる

六疊 居間夫婦の寢室

六疊 書齋兼客室

三疊 玄關、長女勉強室
 湯殿、臺所各二疊
 庭あり

月収百五十圓

二〇%の三十圓を住居費とす

その中二十圓——二十五圓を家賃とし残金を家具什器にあてる。

山手方面或は電車便ある府下にて次の家を借り得る

六疊 居室及老人子供寢室

四・五疊 客間及寢室

三疊 玄關、長女の勉強室

玄關 二疊

月に五圓の家具費を一ヶ年に見つもあり次の如きものを得られる。
 子供を中心として

椅子 三脚 十五圓(布張り)

卓子 二脚 十二圓

黒板 一枚 四圓

本棚 十五圓

世界地圖 二圓

プランコ 十圓

衛生經濟を中心として

自動掃除器 六圓五十錢

改良塵取器 一圓五十錢

大正ゴミ箱 五圓

計量器 十九圓

洗濯機 二十三圓

アイロン 五圓

食事室及台所を中心として

肉ミシン 五圓五十錢

コーヒ出器 三四五十錢
 ユンケル七輪 三圓八十錢
 盛立臺兼戸棚 二十圓
 石油ストーブ 三十圓

一家の收支の見積りをたてること

有限の収入を以て家族の無限の欲望をなるべく多く満足せしめ其の間によく收支の適合をはかり、剰餘を蓄積して生活程度を向上せしむるものである見積りは一家會計の羅針盤たる様直接には生活の標準となり間接には家政の方針を示す様出來得る限り精密正確明瞭なることを要する。

且豫算其の者の自働的實行から大ならしむる様最初から到底實行不可能なる豫算は編成せず其の支出の豫算額を収入の豫算額に適合せしめ、その間に若干の収入の剰餘あらしむる様なすこと。又支出の配當に關して次に記する經費支辨の原則にしたがはねばならぬ。

一 經常支出は經常収入を以て支辨すること

一 臨時支出(水、火、震、風、の災害出生、婚姻、疾病、死亡等)は臨時収入(保險金、非常準備金として平常からの貯金)を以て支辨なすこと

一家屋、家具の修繕又は交際費、税金等度々起り來るものは臨時支出なるも各會計期にその割當額を豫定し得るが故に經常収入を以て支辨すること。又支出の費目間に於ける比例を適當になすこと。

つまり合理的生活の見積りは合理的原則にしたがひ調和統一させるのである。即ち収入支出の均衡、各費目の分類、之に充てられたる費用の權衡を保つ様になす。

次の方法を基礎として見積りをたてねばならない。

(一) 一定の時を限り其の間の収入を見積り、同時に其の間に要する費用を必要なる項目に分ち其の費目の輕重により収入を百分率に割り充つる。
 即ち収入一ヶ月二百五十圓あれば二十五%を食費、二十%を住居費、十五%を被服費にといふ様に割り當て、其の割り當て額は収入の多少に應じ身分的快樂的の欲求を加へ、以て經濟狀況に適合する様合理的な割合とす。

- (二) 収入を各費目に割り充つるに衣食住の如き必要缺くべからざるものは之を重く且先にし娯樂休養の費用は後になす。
- (三) 上の見積りの如く豫算を立てるには費目は出来得る限り少くし權衡がとれる様になし行かねばならぬ。
- (四) 収入の多少は消費の總量に差を生じ又其の多寡によつて現在消費の費目割當の割合に著しい差別を生ずるから収入の割當につきよく考慮しなければならぬ。

ドイツのエルンスト、エンゲル博士は

1. 収入と食物費の百分率は常に反比例となる。
即ち収入の増加に随ひ食物費の百分率は減少し収入が減少するに随ひ食物費の百分率は増加するものである。
2. 被服費の百分率は収入の増加にかゝはらず同一の比を保つものである。
3. 家賃、暖房、採光は収入の増減にかゝはらず同一の割合を保つものである。
4. 教化費の百分率は収入の増加に随ひ著しく増加する。この四法則が作られ

てゐる。この法則を大体基礎とし編成をなす。

食物費は絶対に必要のものにてエンゲル法則にしたがひ一家の収入の減少は食費の百分比を増加せしめ収入の増加は百分率を減少せしめる。食費は其の活動の程度、氣候、身体の大小に應じ少くも衛生上の原則に適ふを最小限度とす。故に食物材料の買ひ方はよく影響を及ぼすものである。

被服費も絶対に必要なるものにてこれは一般の状態に於てエンゲル法則とは異り所得の増加に伴うて増加するものであるが嚴密なる制限を加へ必要的、地位的、快樂的欲望満足に止むべきである。

住居費も健康を保持し家庭生活を營み得るだけの家屋を必要とすれば衛生上必要な要求に適ふを最小限度とし之に身分的、快樂的の要求を加へて其の見積りたる經濟の範圍内に於て最大限度の能率をあげる様になす。運用費は暖房、照明、清潔、修繕、水道費及び使用人の給金等にてその家屋の大きさ構造、間取により差異を來すものにて住居すべき家屋により決定する。常備費は租税、公課、貯金、保險、衛生、交際、個人的小遣にて公費は十分に割當て

おく。又貯金は將來のために必要であり又保険も非常準備金として必要、衛生費も常より貯へおくを要し餘裕あらば常備費は出來得る限り多く見積る様になす。

教化費は所得多き程百分率の増すものにて多き家庭にてはその所得の半を之に充つるのである。

子女の學資としたものの殘金あらば將來の子女教育資料として貯金す。即ち教化費は旅行、學術、研究の圖書、教育、慈善、娛樂等よりなる智的、靈的、向上或は交際により生じたる費用を支辨すべきために作つたものである。

即ち見積りは過去の經驗を根據としてかくの如く考慮を加へ編成するものである。

問題六

妊婦ノ食物ニツキ特ニ留意スベキ点ヲアケ且ツ之ヲ説明スベシ。

解答

一、平素の好みに従ひ榮養分に富み、なるべく消化しやすきものを選ぶこと

一、強烈なる酒精飲料

一、不消化物

一、平素食べなれぬもの

一、刺戟のはげしいもの(芥子、蕃椒、山葵等)

一、濃厚ナル茶、珈琲

一、氷水の如き過冷なる飲料

等は避けなければならぬ。

妊婦中は胃腸の故障を起しやすきものであるから自分の好みのもので消化しやすく營養分あるものを取ればよく消化せられるのである。母の營養の良否は間接に胎兒の發育に關係するものである。

二、食物の量の増減をせざることを。

妊婦がいくら多く食を攝つてもその半分が胎兒に行のではなく却て大食は胃腸を損するのである。又減食は妊婦ひいては胎兒の榮養にも不足を來すから勿論悪いことである。日頃の量を強いて増減せず又その時間も正しくし就眼前の飽食は嚴止しなければならぬ。

嘔氣ある時は食後身体を安靜にし、激しき時は寝たまゝ、食事をとり食事の

量を少くして度々食べた方がよい。

三、酸味強き未熟の果物を食することは悪し。よく熟して甘味あるものを選ぶ。妊婦は一般に酸味を好む傾向があるが度を過してあまり強き酸味のもの食するは害がある。甘味あるものを食することは良いことである。

四、妊婦の初期には普通食欲減するのみでなく悪心嘔吐を催し病的となるもので概して消化器障害を蒙るものである。

この時には身体を安静にして食事をなし特に消化よく栄養分多きものを少しづつ何回にも分けて與へるがよい。牛乳、卵などよい。

五、便秘を起さない様食物に注意すること。

妊婦は殊に便秘しやすいものでその結果流産、早産をおこすことある故必ず便通を整調しておかねばならぬ。

毎朝コップに一杯冷清水を飲むとか冷牛乳を一度に一合のむとか又野菜類を多くとり或は食後果物を食する様になす。

又下痢ある時には殊に食物に注意し不消化物は避けなければならぬ。



六、妊婦四五ヶ月に至れば食欲は進み來るを以て消化しやすき食物を適當に攝取す。

この頃になれば子宮は膨大し腹内を充すから胃腸は壓迫せられ一層消化が妨げられる。

故に一層消化の容易な滋養分に富めるものを適度に攝取しなくてはならぬ。母の血液が胎兒の發育に充當せられるものであるからよく注意をなす。

七、妊婦が病氣の際その病狀甚しくない時には猥りに藥劑を用ひてはならぬ。劇痛のためにモルヒネを用ひたり、頑固な便秘に對して峻下劑を用ひたりするとその使用した藥物のために胎兒は死亡し流産を起す危険があるから産科醫の指導なしに藥は使用しない様になさねばならぬ。

昭和二年度裁縫科豫備試験問題

第一問 左圖ノマントニ就キ其ノ製圖法ト仕立方トヲ詳述セヨ。

用歳二十

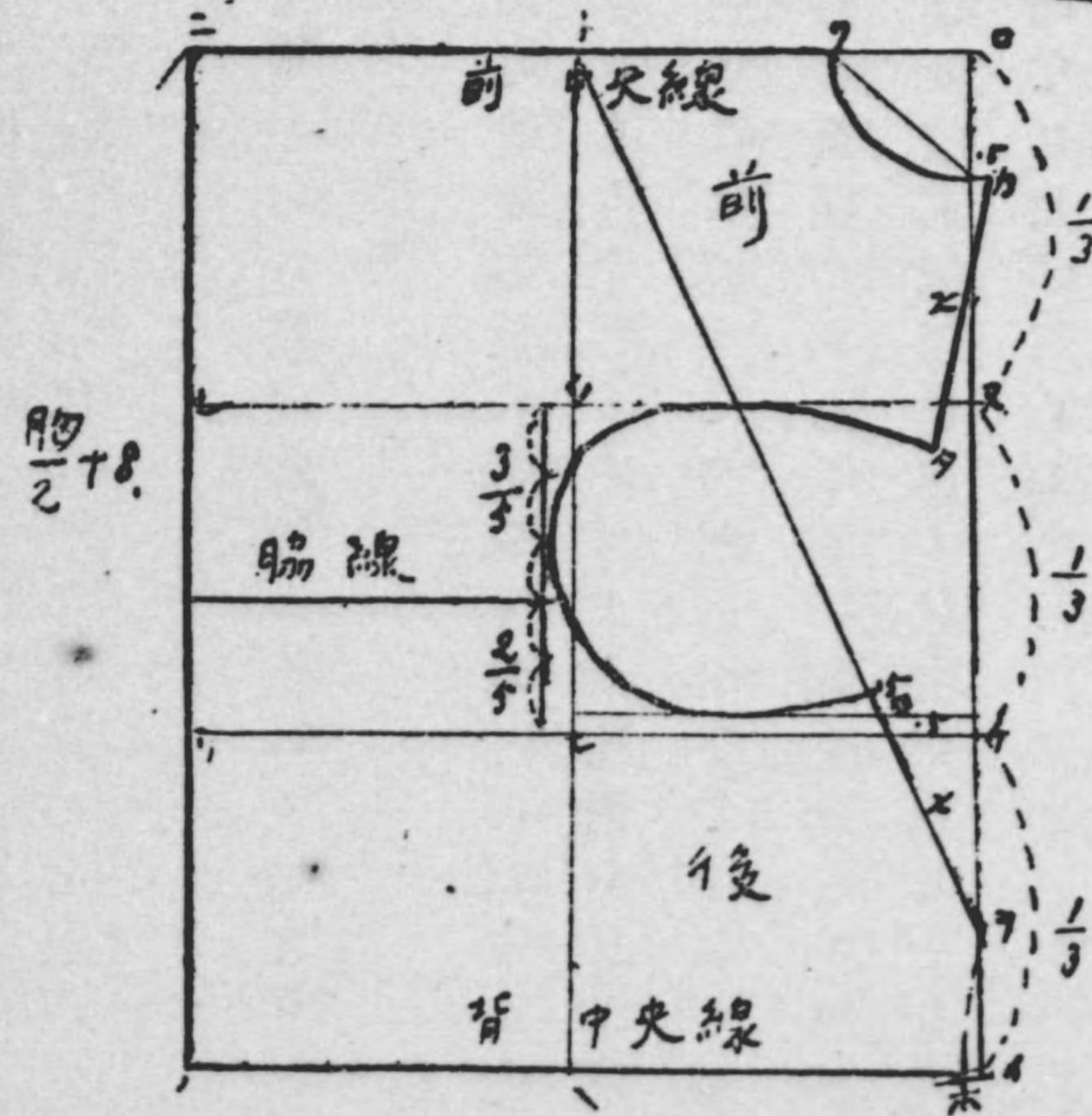


製圖第一圖

背の中央線を引き右端に頸線
 イ、ロを出し、 $\frac{1}{3}$ の長さにとる。
 イよりホ迄を $\frac{1}{5}$ 五種にとり次に
 それより下に $\frac{1}{4}$ をとり腹圍線

解答

標準寸法 身長百四十種 胸圍
 七十種(上着の上より計る)背總丈
 八十種



ハ、ニを出す。

ロ、ニを結びつけ(前中央線)

イよりへ点を $\frac{1}{3}$ にとり胸圍線をト迄出す。

イ、ロの長さを三等分して、前後の袖附線チ、リヌ、ルを出す。

イよりヲ迄を $\frac{1}{5}$ にとり、後衿ぐりをとる。

ロよりワ及カを各々 $\frac{1}{5}$ にとり、前衿ぐりをくる(そのときイ、ロ線の外に $\frac{1}{5}$ 種出してくる)

イよりト迄斜線を引く。後肩下りの線である。

チ、リ線より $\frac{1}{5}$ 五種多く背幅を補ひ、ヨより後肩幅の補ひを $\frac{1}{5}$ 五種出す。

カよりヨ迄斜線を引き、タを後肩幅と同様に定めて前肩幅とする。

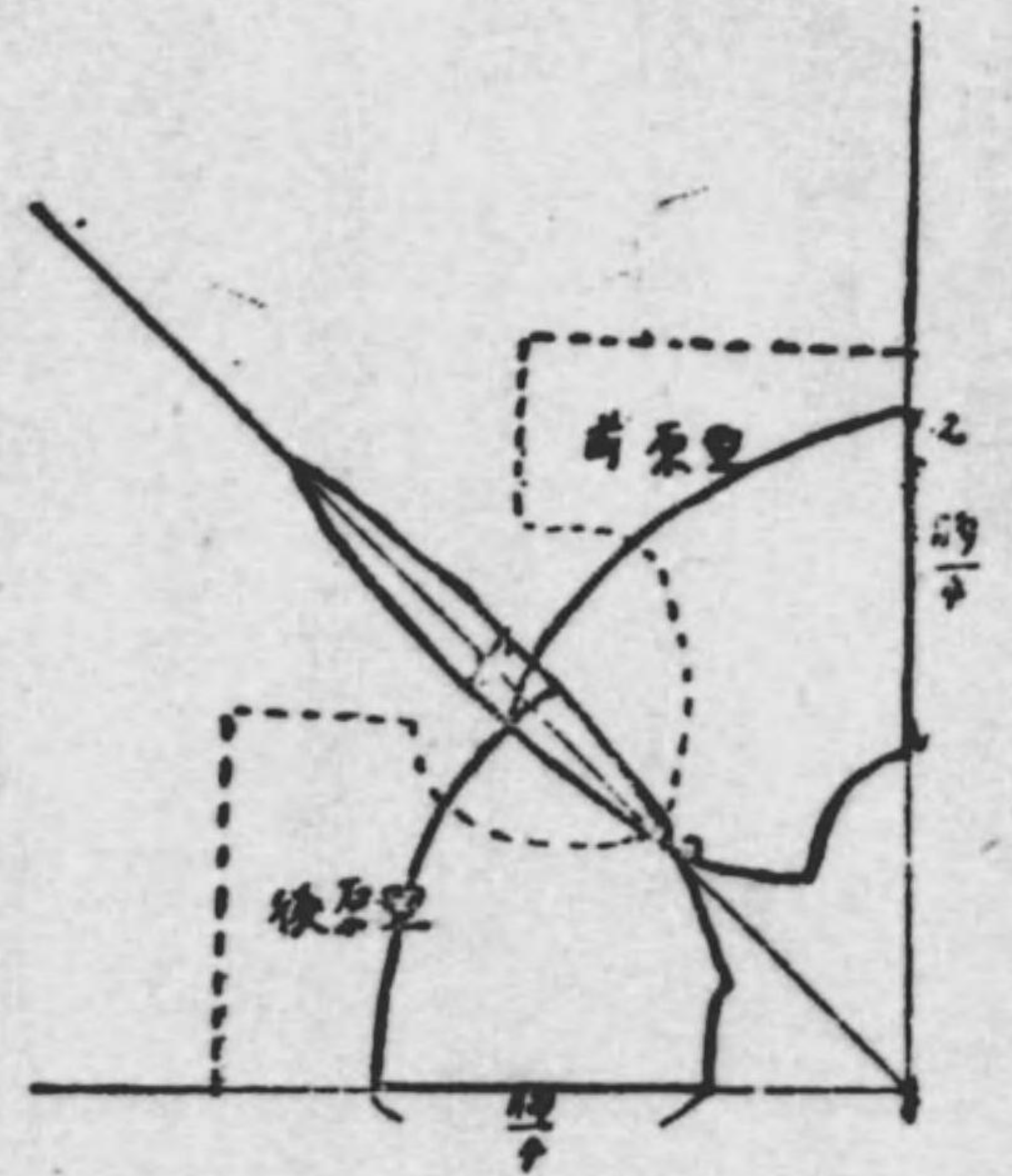
へ、ト線より下に袖ぐりを一種下げて、レ、ソの幅を五等分する。

圖の如く袖ぐりをする。

レ、ソの間を前に $\frac{1}{5}$ 後に $\frac{1}{5}$ と脇線を出す。

二ヨーク(第二圖)

圖二第



原型の後型紙の背を上圖の如く横に置き
 前の中央線を垂直に置き、前後の肩先を突
 き合せる。
 前後の中央線を延長する。
 イよりロに當つて斜線を引く。これが前後
 の分岐線となる。
 衿ぐり及肩の

線は、原型の形を寫し、原型の胸圍線のあたり

では分岐線より一種位づゝ出し、肩の線に

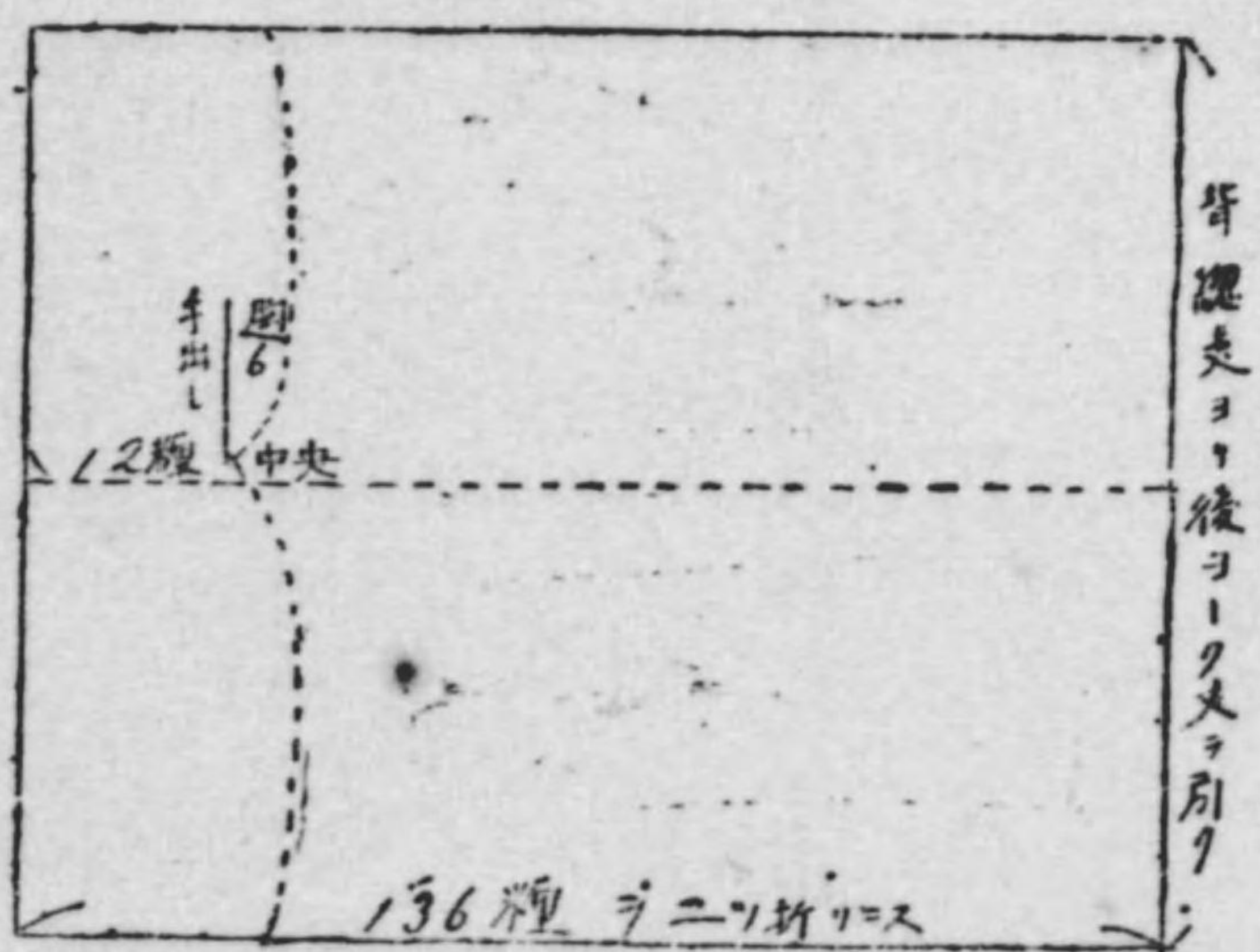
向つて自然に丸みをつける、

衿ぐりの形にならつて下りたるところ

をヨークの丈標とする(前は更に前下りと

して二種下げる)

圖三第



三衿(第三圖)

ヨークにて前下りをつける故に、下の衿は長方形のものをとる。

丈は背總丈より後ヨーク丈を減じたものにとる。

は一米三十六種即ちラシャ幅丈にとる(各自の好みにより、又地質によりてこ

れより廣くするも可)

丈の中央より上に、端より十二種入つての長さ、手出しの位置を定める

四、衿(第四圖)

横に直線を引き、左端のロよりハ迄をの長さにとる。

ハより横線に向つての長さの斜線を引きてイ点となし、そこより直角

に二点をのにとる

イ、ハ線の中央で二種類の丸みをつける。

衿山のところでイよりホ迄を二種にとり、衿先ではハよりヘ迄を一種にとつ

て、折目の線をあがく。

ロより四種離れたところに、ト點を後衿幅ホ、ニの寸法に一種を加へた幅にと

り、衿山より自然に衿幅の線を引く。

衿山にては○五種斜に出す。

五、裏

第四 裏は表同様ヨークの縫目を付け、下は縫ひちどめにする故にヨークは表の型紙を用ひてよろしい。衿は手出しのかくれと迄の長さにとる。

但し布をとるとき前中心は表の折り返し丈控へてとる(三圖中の點線は裏を示すものである)

仕立方

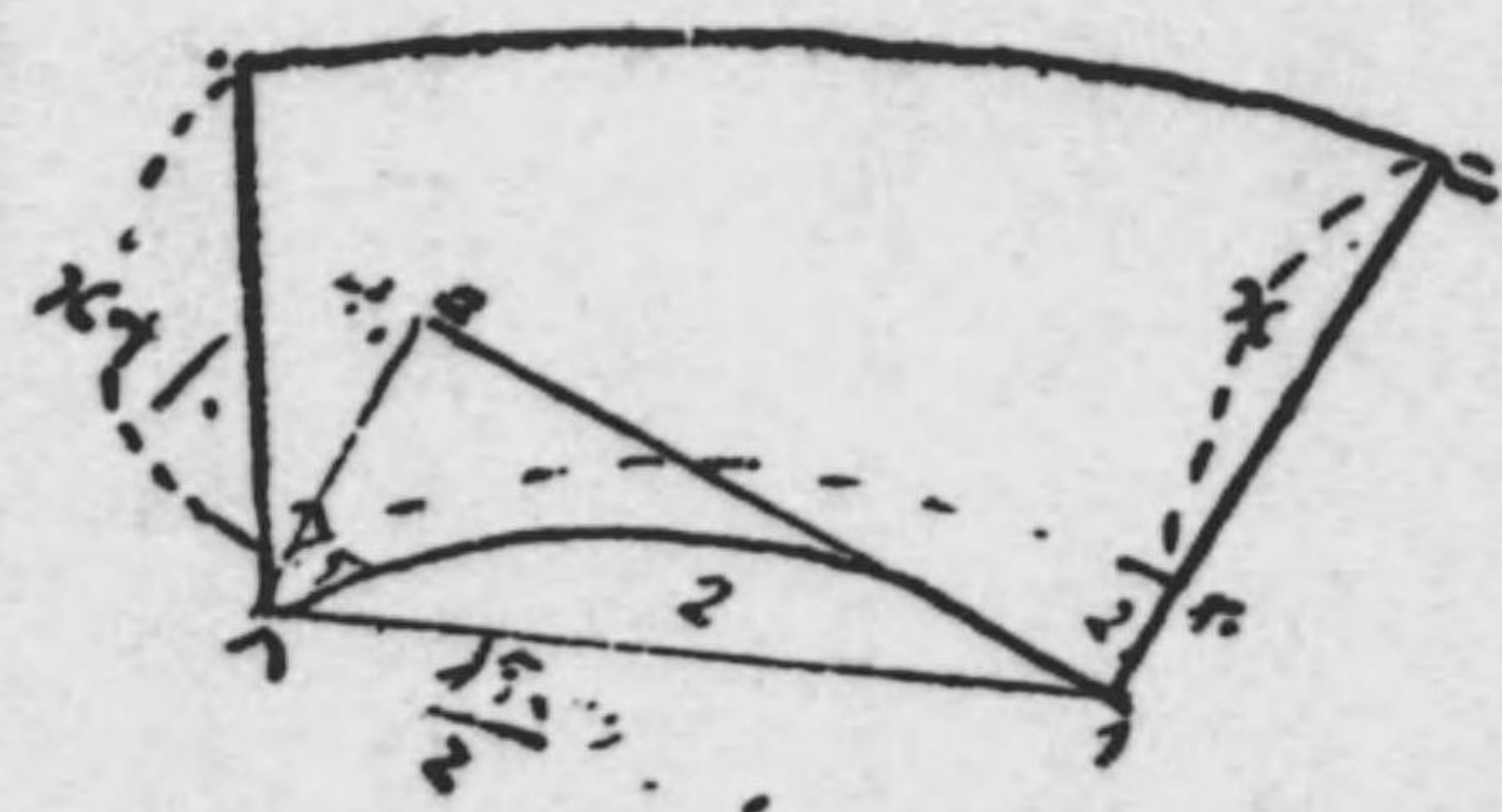
地直し。毛織物なれば水に浸し、陰干にしてアイロンをかける。

裁ち方。毛並の逆にならぬ様に注意して型紙をのせ、左の如く縫代を付けて裁つ。

表ヨーク、肩及外廻り、二種、前中心折り返し、見返し五種、衿ぐり一種。

衿 上部二種、裾折り返し五種、前中心折り返し(見返し)五種。

衿 全部一種、後中央は輪にてとる。



裏ヨーク 肩及外廻り、前中心、各々二種、衿ぐり一種。

襖 金部二種。

縫ひ方

一、ヨーク。前後の肩を合せ、縫ひ目を割る(裏も同様)

二、襖

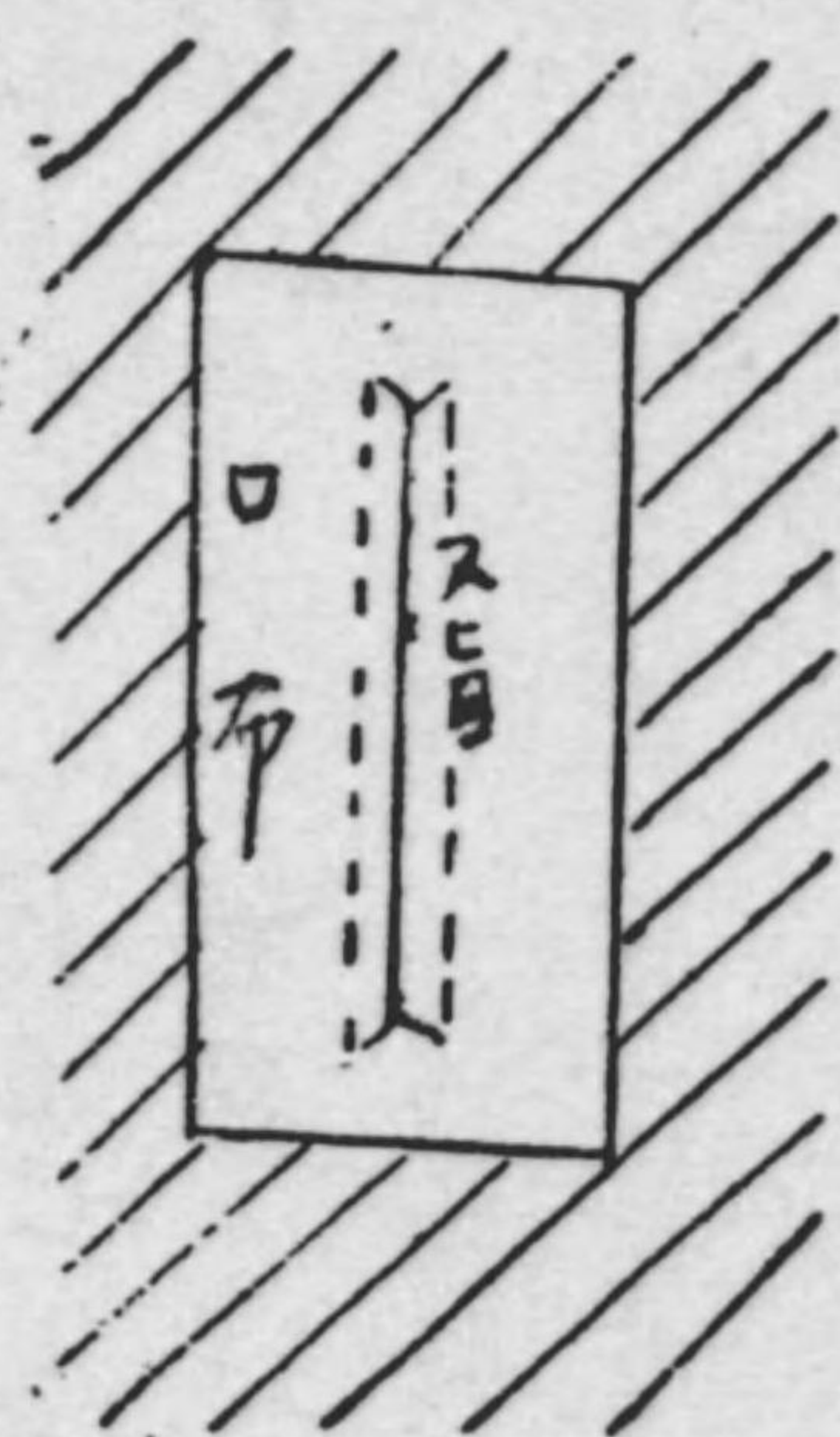
裾口折り返しの端、及前見返し奥を、裏布と同じ布にて細く椽取りにする(三つ折りになしてまつるもよろし)

裏襖の幅を接ぎ合せて縫目を割り、裾口を三つ折りにしてまつる。

表手出しの位置に合わせて口布を中表に置き、熨ておさへる。

ニ、口明を中心三耗づゝ中央より離して圖の如く縫ひ、切込を入れる。縫ひ目を割り、口布を裏側に返し、出来上り圖の形にして(椽幅を三耗にする)表より落ミシンをかける。ホ、裏の手出しに切込を入れ、周圍を表の形に

出來上り圖



合せて折り、正しくのせてまつる。

裏前の中心にて見返し幅だけ控へて折り、表の上ののせてまつる。

裏の裾口を背及脇にて五糎づゝ、千鳥にて、表になるべく針目の出ぬ様にし

ておさへる。

裏表のヨークにて襷をはさんで縫ふ(其時前中央にては

裏ヨークを見返幅だけ控へる)

裏ヨークの前中心を表へまつり付ける。

三、衿

裏衿に衿芯(キャンパス)をのせて襷にておさへ(折目の線
を境に上圖の如くミシンをかける。)

この刺したる衿と、表衿とを合せ、衿附の方丈残して他の

三方を縫ひ、次に芯を縫目の際より裁ち落し表へ返す。

衿附 表ヨークと裏衿とを中表に合せて縫ひ、縫目を割り

其上に表衿を幅のつれぬ様にのせて、綴ちつけ、其針目の



上に裏ヨークをのせてまつる。

四、仕上

當布を當て、霧を吹きアイロンをかける。

衿附止りの裏側に長さ六十糎のリボンをつける。

第二問 宮詣り用産衣女児用綿入重ヲ調製スルニ當リ左ノ事項ヲ説明スベシ

1、上着、下着、表裏ノ地質 3、裁チ方積リ方

2、仕立上ゲ寸法 4、縫ヒ方上ノ注意

解答

1、地質 上着表 縮縮類 紋織物類等

全 裏 紅絹 羽二重等

下着表 縮縮類 紋羽二重、八ッ橋、綸子等

下着裏 上着裏に同じ

上着友仙下着緋縮縮を用ふる事あり、この場合は上着の袖口、裾廻し
紐布を下着と同地質即ち緋縮縮等を用ふる事あり。

2. 仕立上寸法(種を單位とす)

上着 袖丈五五 袖口濶袖 袖附一五内外

袖幅二三内外、身丈九五、身八ッロ一〇

衿肩明四 衿下り一〇 肩幅、衿、後幅、前幅一ッバイ

衿下一九 衿幅一五 相接幅、衿幅よう八狭く

衿幅三五 紐附肩より二一 紐丈九五

紐幅半幅二つ折 衿八

下着 上着を標準とし加減すべき箇所と寸法

(但し上下同地質の場合)

袖丈、口、二、二、詰め 袖附〇四詰め

袖幅、肩幅、衿、同寸 身丈四詰め 身八ッロ同寸

衿肩明三詰め 衿下り同寸 後幅八詰め

前幅八詰め 衿幅同寸 衿下同寸

相接幅、衿幅同寸 衿丈半丈に對し一種詰め

附衿の位置一高く 衿同寸

3. 裁ち方

積り方 (表)



積り方公式 4種丈+3身丈-衿下り+2裾廻し丈+2紐丈=總尺

全 算式 $57 \times 4 + 95 \times 3 - 8 + 38 \times 2 + 95 \times 2 = 771 \text{cm}$

(袖幅より切を出す可) (裏)



積り方公式 表丈-裾廻し丈+胸接代+2出衿=胸裏丈

全 算式 $95 - 38 + 5 + 1.6 = 63.6 \text{cm}$

積り方公式 4種丈+3胸裏丈-衿下り=裏地總用布

全 算式 $57 \times 4 + 63.6 \times 3 - 8 = 402.8 \text{cm}$ 下着も同様

4. 縫ひ方上の注意

大と幅前記詰寸法は上下同地質の場合を標準とせるものなれば各丈各幅の詰寸法は地質の垂れ加減を調べ適當に定むべきである。

袖 袖丈の詰め方は口と奥で〇・三の差がある故袖下を自然に斜に縫ふ事になるこの口、一・二、振、〇・九といふ寸法も前項に述べた様に地質により尙綿の厚さにより斟酌すべきである。
袖幅は上下正しく合ふ様充分に注意し袖幅の釣合に不揃を生せぬ様せねばならぬ。

襟 上下四ヶの襟の格好を一定する様する事

衿丈一種の詰め寸法は衿肩明で〇・三身丈で〇・四、あと〇・三は衿附の斜の間で衿附の斜を多くして詰める。

第三問 紹ノ大人男袴ノ縫ヒ方ヲ記セ

解答

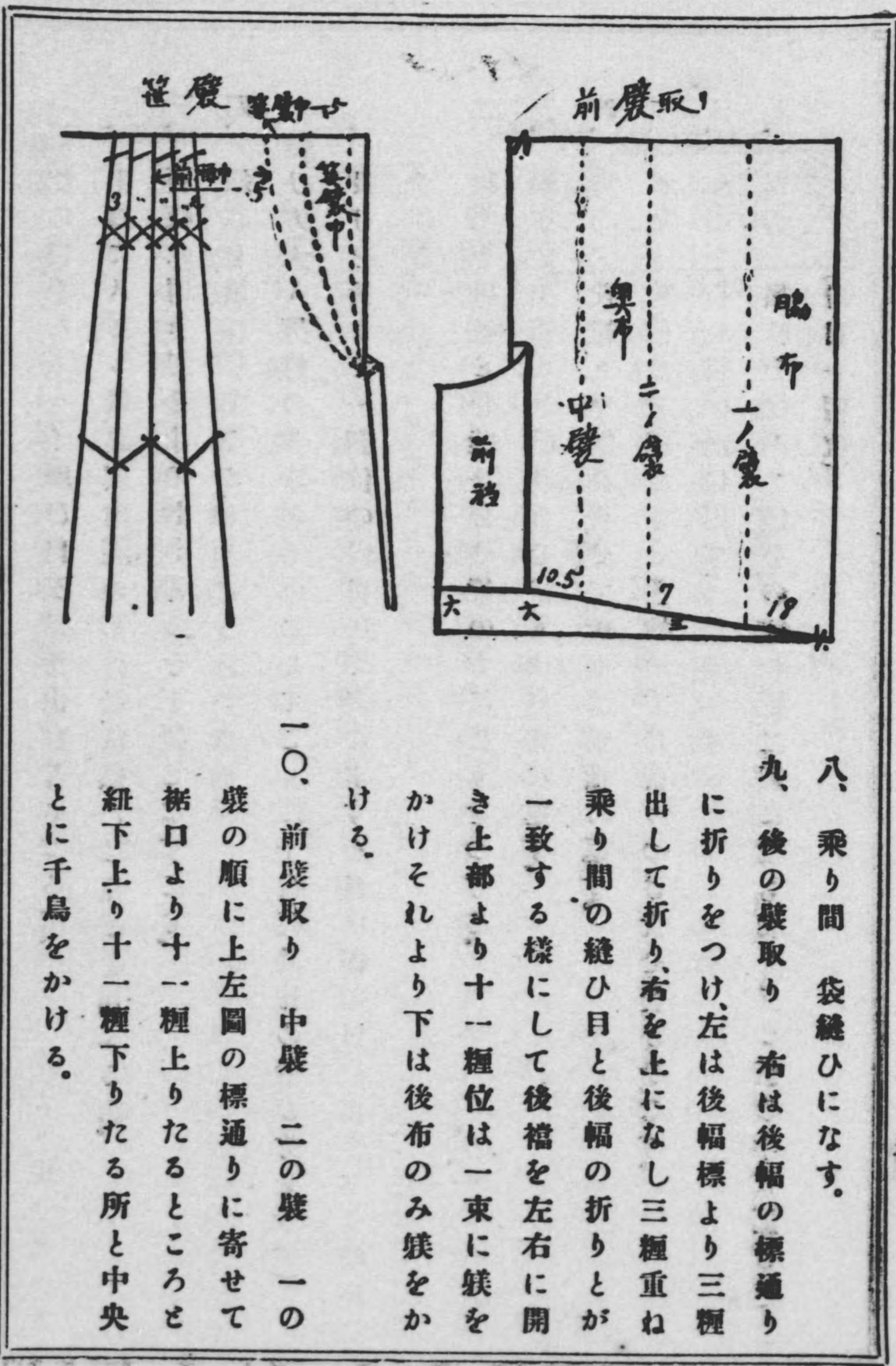
紹織袴の仕立方につき注意すべき点

- 一、 紹の目をなるべく縫ひ目又は折山になさざる事。
- 二、 裾口に入る、紙裏腰附菱の裏打紙紙燃には黒紙を用ふる事。
- 三、 腰板は薄き黒金巾の如きものを下張となすこと。
- 四、 紐芯を黒になすこと。

縫ひ方(大人男袴の普通のものとしてこゝに十番馬乗袴の縫ひ方を示す)

- 一、 投げを折りて一種位の針目にて表に出す小針は紹の目に出さざる様拵けつける。
- 二、 後方と後襠とを縫ひ合せ襠の方に折りをつける。
- 三、 脇布と奥布とを縫ひ合せ折りは奥布に返す。
- 四、 奥布と前襠とを縫ひ合せて折りは前襠に返す。
- 五、 後襠と前襠とを縫ひ合せ前襠の方に折りつけ伏せ縫ひをなす。
- 六、 相引を合せ折は前に返す。
- 七、 裾拵 黒紙を揉みて皺をのばし幅二種に裁ち切り三つ折の中に拵け込む

(針目一種位)

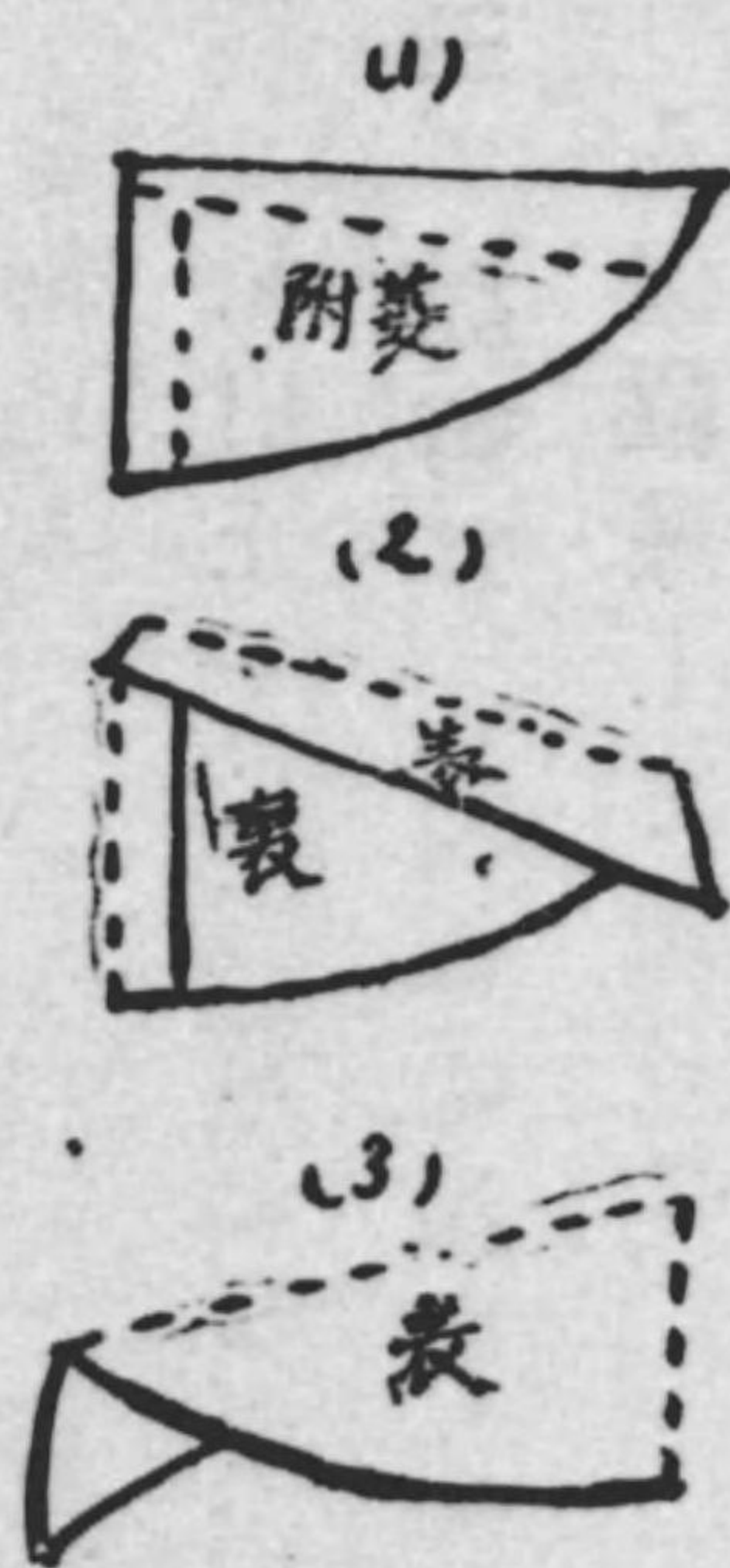


- 八、 乗り間 袋縫ひになす。
- 九、 後の腰取り 右は後幅の標通りに折りをつけ、左は後幅標より三厘出して折り、右を上になし三厘重ね乗り間の縫ひ目と後幅の折りとが一致する様にして後裾を左右に開き上部より十一厘位は一束に袂を掛けそれより下は後布のみ袂をかける。
- 一〇、 前腰取り 中腰 二の腰 一の腰の順に上左圖の標通りに寄せて裾口より十一厘上りたるところと紐下上り十一厘下りたる所と中央とに千鳥をかける。



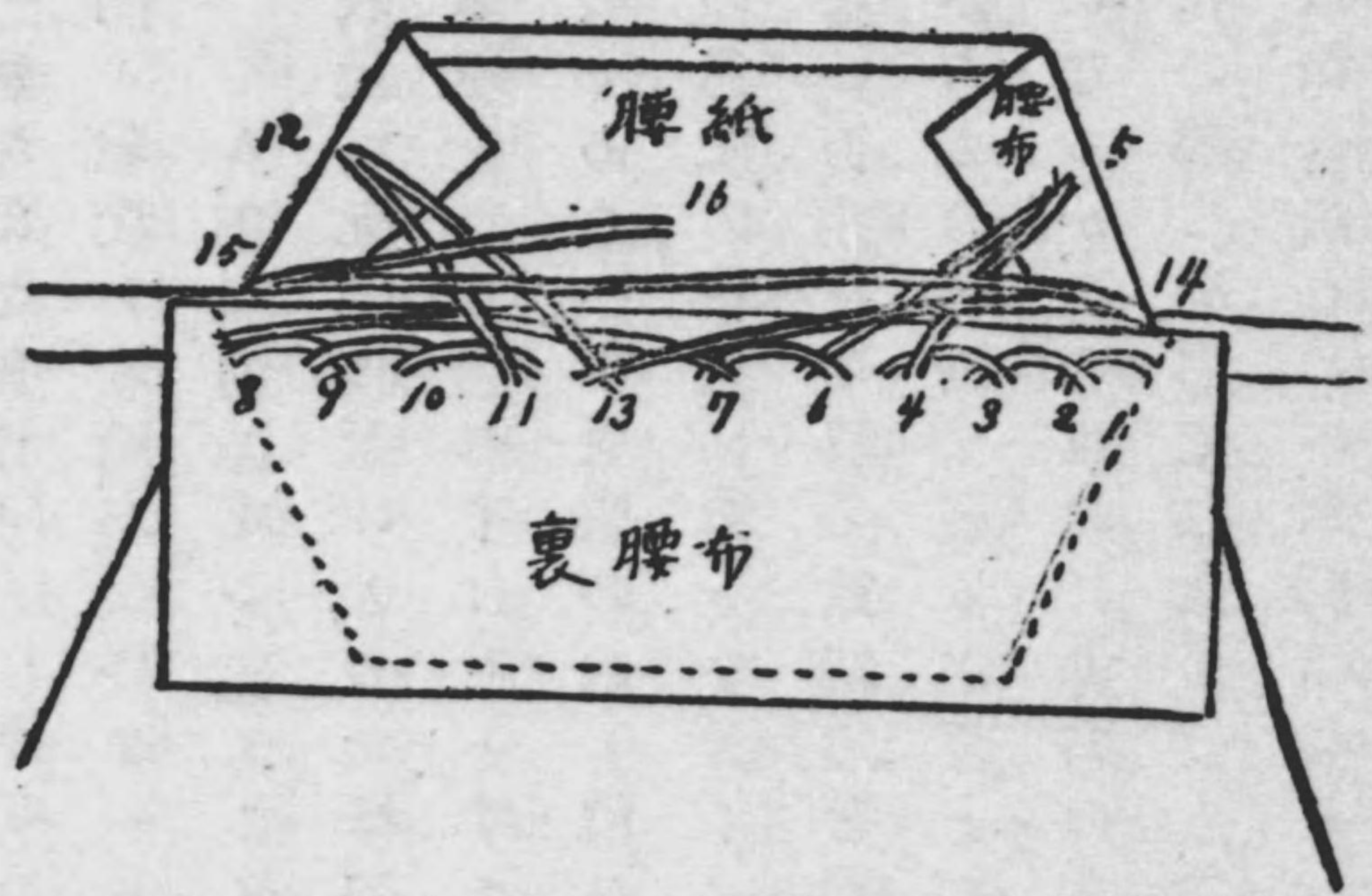
- 一一、 笹襷 前頁左圖の標通り端より折りて笹襷を折り中より綴じ裏の方を新ける。
- 一二、 相引止りに門留をなす。
- 一三、 紐新け 前後の紐に芯を入れ、後紐は一端を六厘残し前紐は中央三十八厘位残して新ける。
- 一四、 仕上げ 腰立をなす前に全体に火熨斗をかける。
- 一五、 前紐付け 黒紙を揉み皺を延し、丈は腰幅より四厘長く幅は $2 \times \text{前幅} + \text{高}$ にて切り、二三枚重ねて紐丈の中央に綴ぢ前腰幅の中央と合せ二本の捻糸にて紙と共に半返しにて附ける。前縫込の多きときは縫込みを紐幅の中に納まるだけ折り残りの縫込みは下に出してその縫込みの端を同地質のもの或は甲斐絹の如きものにてくるみても可_(イ)前紐附に綴ぢつけ紐の厚さを平均して新ける。
- 一六、 後腰立
- (イ) 後腰紙の裁ち方

- (ロ) 黒紙を幅三種位に切り燃りて十一種の長さに切る。
- (ハ) 裏腰布及び附菱布に黒紙を揉みて伸ばし裏打をなす。
- (ニ) 薄き黒金巾を伸ばし腰板の表にかたき糊を一面にうすくひきそれに張りつけ裏に少々返して貼りつける。
- (ホ) 腰板の裏の上部に○八種の深さに糊をつけ表腰布を貼りて腰布を折り返す(上部の角に絹の目のあたらざる様に注意する)
- (ヘ) 腰紙の表の下部に浅く糊をつけ腰部にゆるみなく絹の曲らざるやうに貼りつけ、腰紙の下部より玉縁幅のみ起して上に折り返し、折をつけ紙燃りに糊をつけて丈の中央に入れ裏側に折り返して貼りつける。



表腰板にあて寸法を正して裏側を貼りつける。

- (ト) 腰の下の角より二七種位上りたるところに切り込みを入れそれより上は腰紙に貼りつける。
- (チ) 附菱の高さと幅をきめ上圖の如く折り



丈を後に折りて貼りつける。
一七、仕上げ 白布をあて、火熨斗にて仕上げをなす。

- (リ) 後紐のつけ方 腰板の下より紐幅だけ上りたるところより○二種位寸法をつめて紐山ご合せ燃り糸にてとめる。紐の表側に表腰の下方をくるみて全体として更にとめるその糸にて紐の締め残りを締める
- (ヌ) 腰紙を後布の腰幅標に合わせて表にのせ待針をさす。
- (ル) 表腰と裏腰の縞目を合せて裏腰布を裏にあてる。
- (ヲ) 裏腰よりみて上圖の如く腰をたてる(燃り糸にて)
- (ワ) 裏腰布を上にて○四種控へて幅をさきに

一八、 乗り間に前後共上より十二三種下りて真綿をくるみ千鳥をかける。
一九、 丈を三つに折り、前後の紐を一緒にして畳み両端を幅二種中央を幅三種の紙で封する。

第四問 現代ノ裁縫科教授ヲシテ一層能率ヲ増進セシムルノ方案如何

解答 A 創造的能率を養ふことに努むべし。

裁縫は元來模倣のかつた學科である所から、教授者も被教授者も單な方法の傳達を以て能事了れりとする傾向がある。これ實に現代の裁縫教授の一大缺陷である一の衣服の裁ち縫ひをするに當つては、その方法の何故斯くなすかの意味の發見に重きを置くべく、學習の成果そのもののみを目的とすべきでない否、生徒の眞の裁縫力を養ふ上から云へば、學習の過程こそ却つて大に力があるので、斯く視ると否とによつて、生徒の學習態度が模倣に陥るか、創造的になるか、その成果に非常の差を生じて來る。模倣より創造へ、裁縫も亦この時代の聲に應じて取扱ふこと、これ能率増進の一大要諦である。故に知識教材を取扱ふ場合には、教師はなるべく輔導者の位置にとどまつて、生徒の活動によ

つて理解體得するのを俟つべきである。或一の衣服を授けるとする、先づ出來上たもの、觀察から出發して、如何に裁つか、如何に積るか、如何に標するか、如何に縫ふか等、皆生徒自らの研究的學習に俟つべく、教師自らか如何にすべきかを傳達することはなるべく避けたいと思ふ。斯く扱つてこそ生徒に研究的興味も湧いて來る。進んで創作する力も付いて來る。斯く裁つべし、斯く縫ふべしと教へて生徒を常に受動的の位置に置いたのでは、教授の効果は到底模倣の力を養ふに過ぎないのである。

この点から教便物なども大に工夫が要る。總の結果を書き盡して、生徒はおろか、教授者までも活動の餘地のない教科書を使ふことなどは却つて如上の趣意に反する憂がある。教科書の知識教材に關する部分は、生徒が研究習得の結果を補足することによつて完全なものになる程度の物にしたい。裁ち方圖を作る上に、十分の一大の寸法のカードを用ふることなどは有利であると思ふ。技能の熟達を目的とする教材は、教師は常に生徒より數歩の先頭に立つて誘導するのがよい。教師の技術が優秀なればなるだけ、生徒の技術も著しい進歩

を示す筈である。故に此際には示範を完全に徹底的に行ふ必要がある。標本の観察は、單に理解に効果があるばかりでなく、生徒の成績の向上にも直接影響するのであるが、それにも優して一層力あるものは、生徒の眼前に於ける教師自らの作業、即ち示範である。然るに現在の裁縫教室は、特別教室と云ふには餘り特異さが無い。普通教室と比較して異なる所は、机の大きさとその木質に過ぎないので、技能教授の場合には殊に工合が悪い。即ち示範でもする場合には机の配列を動かすとか、學級の人数を數分團に別つとかしなくてはならないので、時間の空費を思ふとつい躊躇される。教師は常に自分の技倆を練磨すると同時に、設備の上にも大に工夫すべきであると思ふ。

B、生徒の生活に即すべし。

學校に於ける裁縫科の扱ひ方が、他の學科と等しく一定の主義方案のもとに必然的效果を擧ぐべくつとめ、漫然たる練習の効果のみを目的とすることなく、練習の時間を大に節減し得るに至つたのは、慥に一の進歩であるが、現在の扱ひ方は、餘りにも形式にとらはれて實際と隔りが出來て居る様に思ふ。裁縫

家事等の様な學科の性質が單に頭腦を作るのではなくて、直に實際的であるものは、常に生徒の實生活と融合して行かなくてはならぬと思ふ。以下少しく實例に就いて記して見る。

細目の編成は生徒の將來の生活を標準とすべきである。社會は進展する、進展させねばならぬ。故に現代に適合するよりも寧ろ時代を作るの意氣をもつて、將來の生徒の實生活に適合したものを撰定すべきである。

裁ち方教授を實際的ならしめたい。假令は總尺を度るのに一々尺度を置き尺にするが如きは、實生活と大分の隔りがある。裁ち方に於ては、二三耗の差は縫ひ方の場合の何の支障にもならないのであるから、持尺の方が早い点に於てよいと思ふ。又多くの家庭では、皆持ち尺にしてゐるのである。

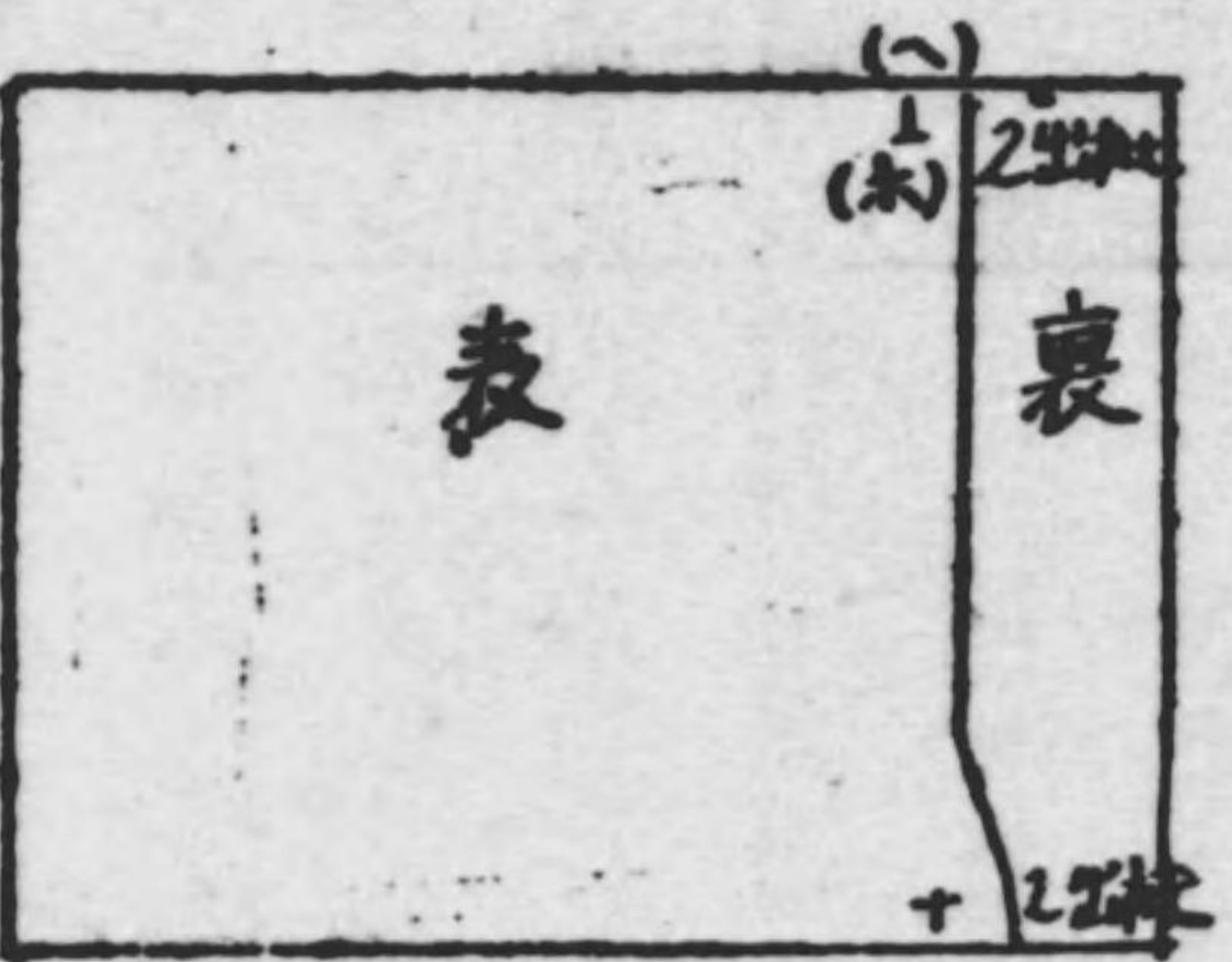
積り方の公式によつて計算して裁ち切り寸法を算定するのなども甚だ迂遠なやり方である。この爲めに鉛筆が要り、紙が要り、ノートが要る。そして時に計算の誤りが生じる。裁つ反物があるならば、直に折つて見さへすれば、自ら裁ち切り寸法は算定される。多くの家庭では多くの裁ち方は、そうして裁ち居る。實

物又は代用の裁ち紙が無い場合、單に彼此の裁ち方を比較して見る場合などには無論公式もよいが、何の爲に裁縫を學ぶのか、將來實物を迅速に精巧に裁縫する爲であることは云ふまでもない。それならば常に實物を扱ふものとして、實際的な方法によるべきであると思ふ。

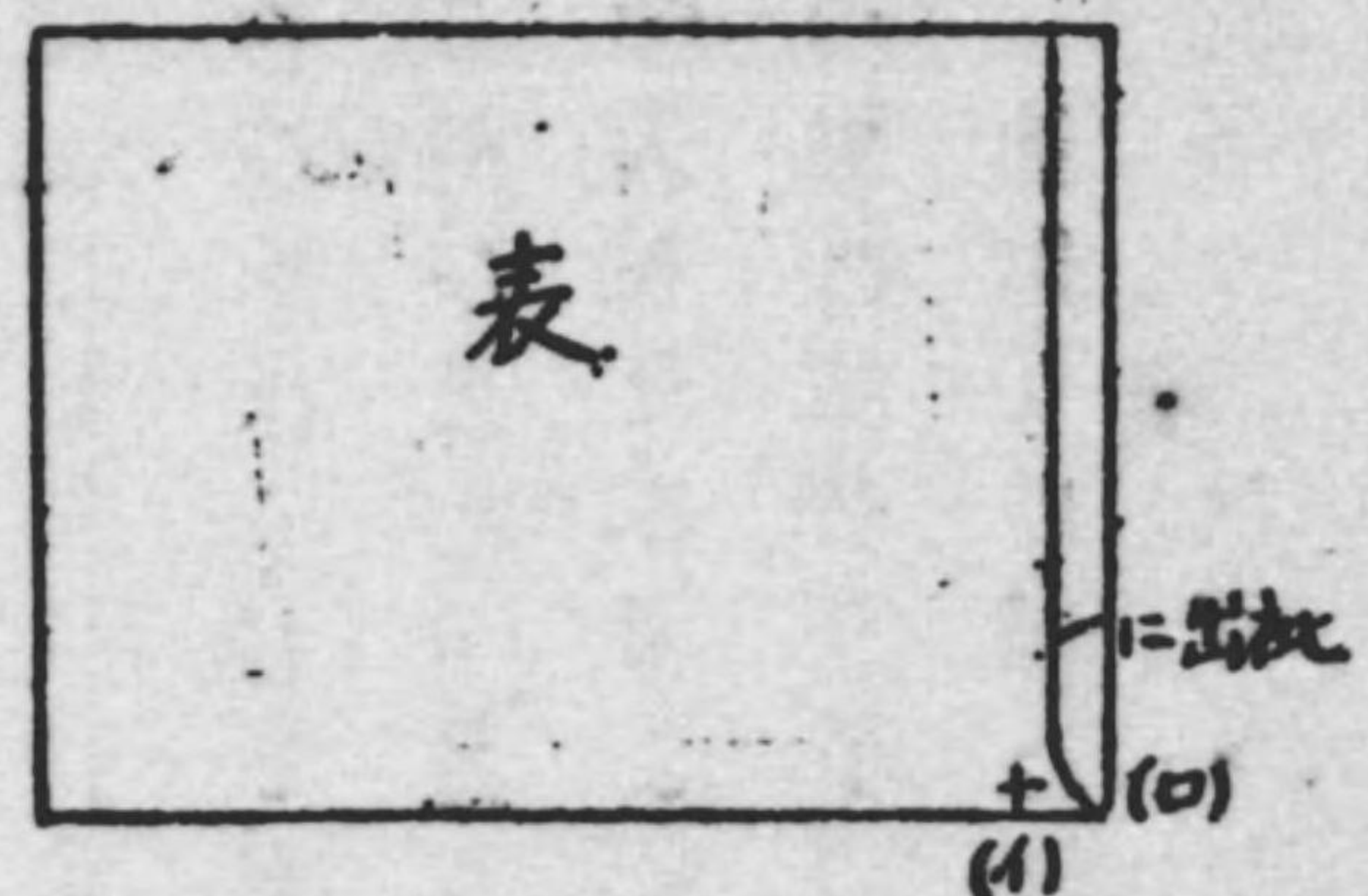
ミシン機械を使用するのにも拘らず殆手縫にするの全様の手数と時間を費して無駄に糸を使い、機械の能率を減殺して居るのなども亦實生活と離れた仕方である。尙當然解いて仕立直さねばならぬ和服を返針で縫ふこと、下着にすぎないウエイスト、ドロワース等を手縫でミシン縫にすることなども誠に實生活とはかけ離れるやり方で、それこそ生徒時代の遊び仕事にはそれで済むが、一般の家庭生活とは相容れぬものである。實際的なるべき裁縫を求めて迂遠な、役立たぬものにする様なものである。生活に即すべし。これ亦現代に於ける裁縫科教授能率増進の一大要諦である。

第一問 上前襟ノ縫ヒ方ニ就イテ 解答

圖二第



圖一第

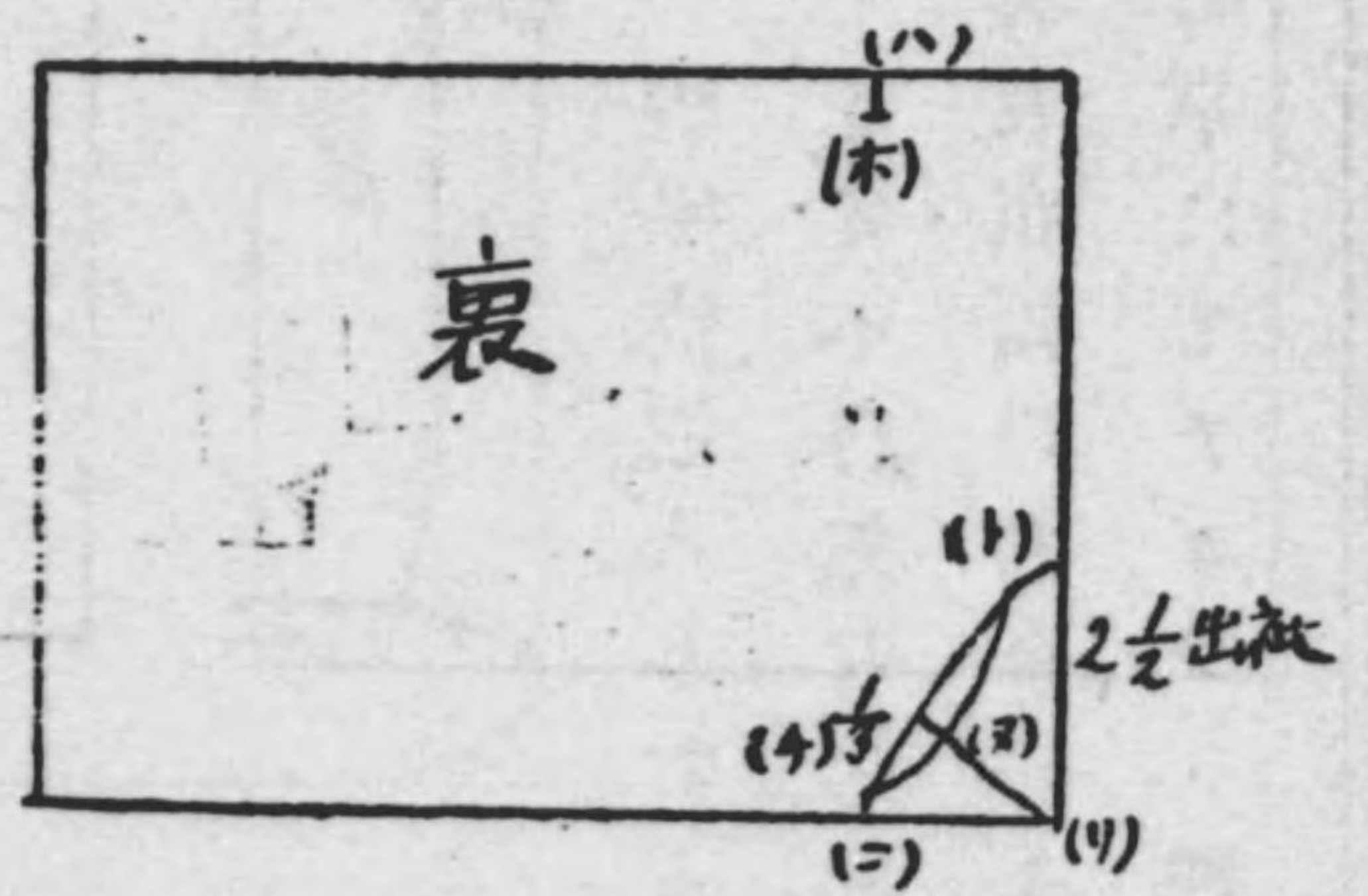


出衤 || 二種半
用布 || 絹布

地直し 先づ用布の裏より、火熨斗をかけ、地を平になし
耳糸の結りは、緩にて伸して固く巻棒にまきおく。
標付け方

- 表に切り下げをつける(イ)出衤落す
- (イ) 衤下りも (ロ) 裾口も二六八釐の縫代
- (ロ) から (ハ) まで出衤の二倍にこり衤付の方で
- 出衤として (ハ) まで真直にし それより
- (ロ) までよい形をつけて切る
- 裏を表の下に重ねて丈幅の標付をなす

圖三第



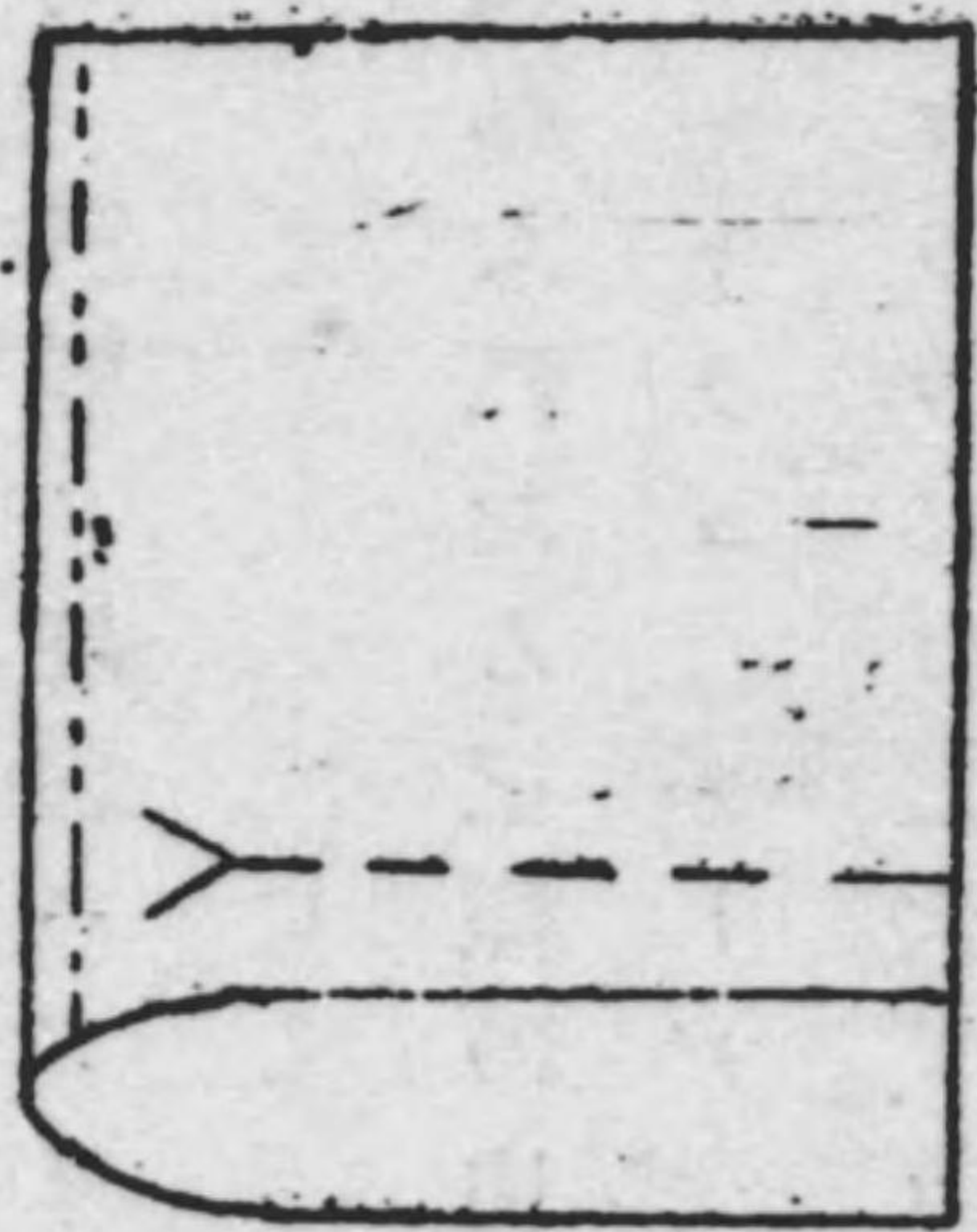
- (リ) より (ト) に 1/2 出紙に取り (ニ) と結び其の (イ) の (チ) と
- (リ) を結び其の (イ) の (ヌ) を取り (ト) から (ニ)迄 (ヌ) に當りや
- (ル) を引き加減に標を付ける

縫ひ方

- (一) 襟形を標通りに真綿糸にて細かく縫ひちよめ、鍔にて充分伸しておく。
- (二) 中表にして標通りに裏表を合せ待針を一つ、襟形の所は表布のゆるまぬ様に釣り合ひをよくして、裏より細かく縫ふ(襟先に糸結びしないやう)
- (三) 縫ひ目に平鍔を充分かけて表返し、半種の被せにて隠躰をなす。襟先より二種入りたる所より衿幅標より二種入りたる所まで、巨離二種位にしてかけ、布の燃れぬやう平にかける。猶裾口の縫ひ目よりは(キセ)の山より半種位上る。
- (四) 綿作りは、綿の厚薄にもよるが大体丈十五種、十一種、八種中に五種位より綿各々二枚づつを作る。外側を真綿にて覆ふ方よし。先は襟形になし置く。

おく。

- (五) 作りたる綿を襟形の通りに少々綿のゆるみ加減に入れ襟先、衿山によく綿の入る様注意す(あまり綿のかたくならざるやう)
- (六) よく綿が入つたならば假綴ぢをなし、衿下を新ける。此の時裏の衿下によく綿を合せて細かく新ける。



- (七) 飾躰をなす。躰糸二本にて圖の如く、被せ山より二種位上りたる所とす。大針約三種、小針八耗位にす。
- (一) 形は人の好みにもよれども長過ぎず、丸過ぎず、ふつくりと丸味をもつて、而も勢あるをよしとす。
- (二) 裾口は布目真直に、表切り下げは襟先より衿の凡そ一種半位這入りたる所より自然に丸味をもたせて、切り下げのつきたるをよしとす。不自然なのは悪し。
- (三) 裏表布幅の釣合のよしあしを見るには、まづ左の掌上に襟をおき、其の上を右の掌にてチョット押へて見たる時、若し襟先にて、衿に斜の皺を生ずるは

裏幅のつまり過ぎたるを示すものなり、之は押へても形のくづれないのが好い。又袷先の形自然ならずして口嘴のやうになるのは下縫の標をなす時、丸味を作る見當のとり方急激にして而も丸味のつけ方少なき爲め又は袷先にて裏布幅のつりすぎたる爲めなり。

第二問 三種ノ地質ニツキ適當ナル穴ノカハリ方(各々二個)

解答

與へられたる三種の地質

キヤラコ ナーデ ランヤ

キヤラコには眠穴を、ランヤには鳩目穴を、ナーデには菊座穴を施すを適當とし、左に其方法の大略を述べ。

眠穴及鳩目穴に就きて

1、右の二者は各々釦の大きさに穴を明く(釦の厚い時には其厚みだけ大きく切ること。

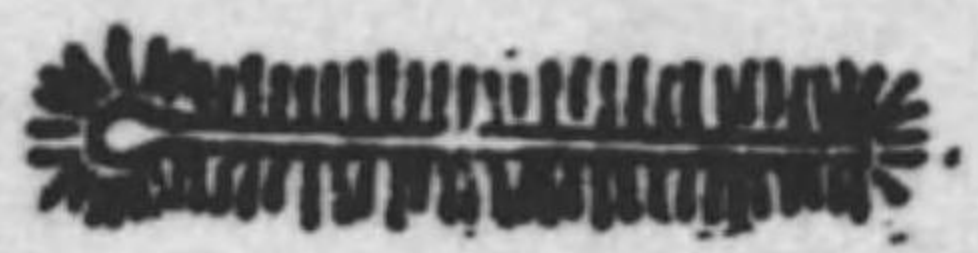
2、一本の力糸を少しくゆるみ加減に渡して裁目のほつれぬ様かゞり行く

- (注意すべきは兩側の膝系突合せとなりてすきまなきこと。)
- 3、止りに門止をなす。
- 4、仕上げ

出来上り圖



(1)



(1) 眠
鳩目穴
を正す。

其方法は膝りたる穴の裏面よりへらを通して形を整へ、釦にて周囲の布目を正す。

菊座穴に就きて

- 1、上り穴の大きさより二耗位大きく圓形の標をつく。
- 2、標通り小針にてゆるみ加減に縫ひて力糸とす(イ圖の如し)
- 3、口圓の如く布の中を十文字に切る。
- 4、ハ圖の如く縫目の際を切りながら膝る。
- 5、止りの糸は裏側三耗位斜奥に出し打ち止めをなす。
- 6、釦にて圍りの布目を正して形を整ふ眠穴と同じく膝系に釦を當てぬ事

解答

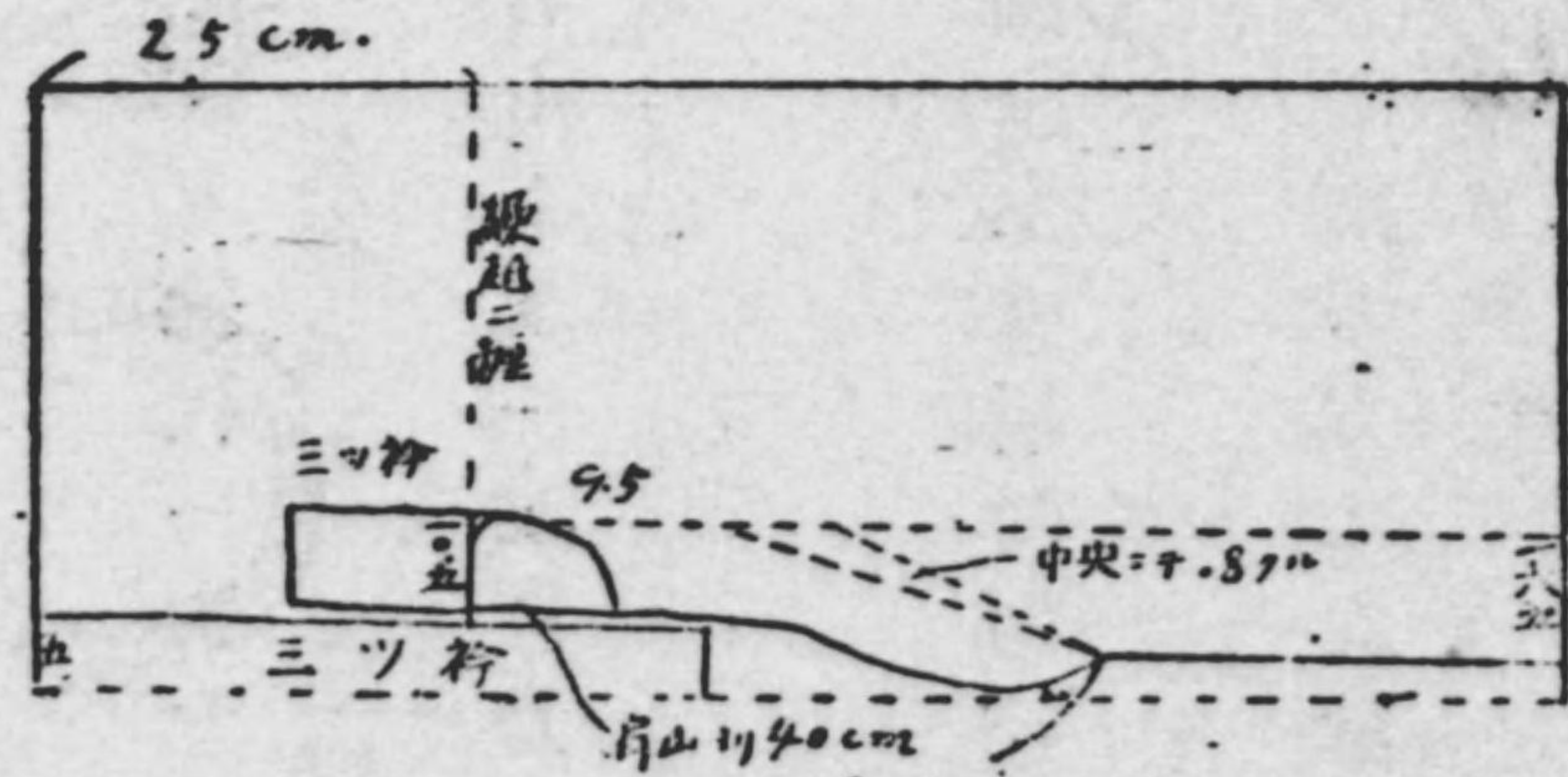
裁ち方分解圖

てに布用たれらへ與 (一)

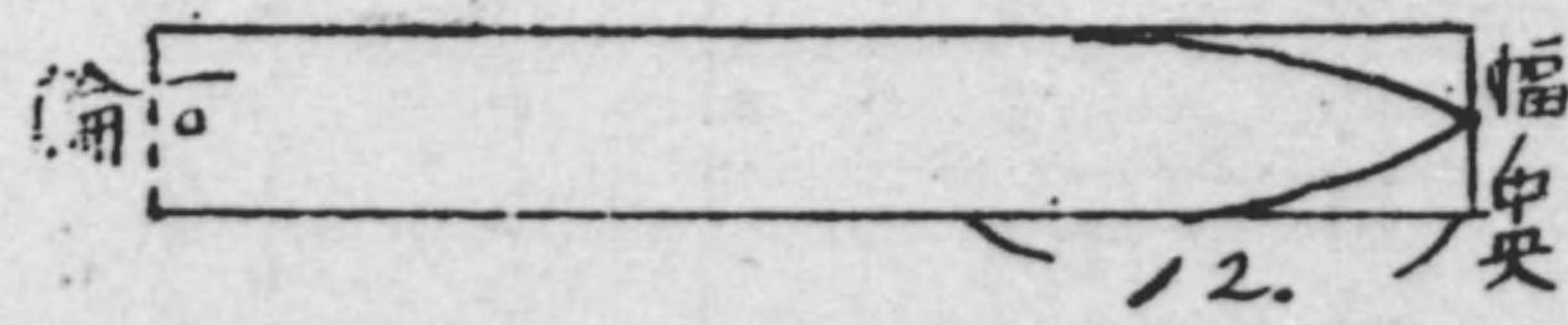


三つ衿丈の定め方

衿 (二)



方ち裁の衿小 (三)



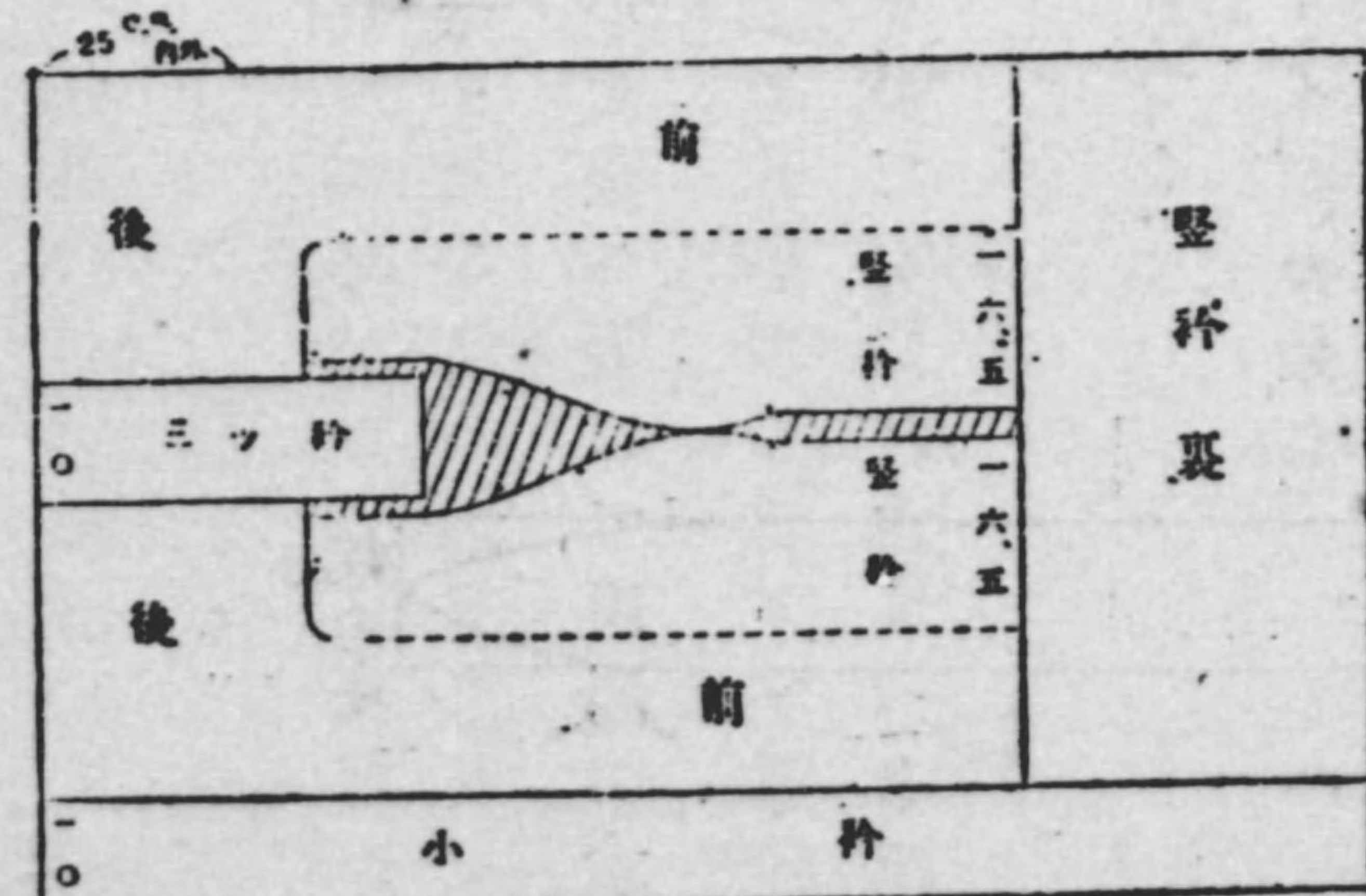
第三問

コートノ衿附(左圖ニヨル)



菊座穴出来上り

衿の出来上り圖 (折れ目)



表地縫い方目

脊縫より糸にて三つ衿の不足の部分計り縫代二種を加へてその二倍を三つ衿丈となす。

表衿丈の定め方

脊縫より糸にて裏衿を前明止りまで計り縫代一種を加へてその二倍とす。

裏堅衿の定め方

幅は表堅衿に縫代一種加へる丈は肩山より一五種乃至二〇種程下りたる處までとし形は表に合せて裁つ

釣紐

肩滑と同じ用布にて斜の布を用ふ出来上り幅四種長さ四種となす。

肩滑の布

肩滑は並幅の時は丈七〇種の四倍とす。裁ち方は表身頃に合せて衿肩及前のくりをなす。

縫ひ方順序

1、表身頃の脊縫をなし折は左身頃に返へし裁目をテープにて包み奥をま

つりつける。

2、肩滑の脊縫をなし表と同様に返へし裾を三つ折りにして新ける。

3、身頃の脊と肩滑の脊とを合せて綴ぢ置く。

5、三つ衿に心(キャンパス)を入れて上圖の如くミシンをかける。

6、裏衿(身頃の方)にも心を入れて袂にておさへる。

7、三つ衿の圓き方の中央を脊縫ひに合せごく細かく縫ひて割り鋲をかける。

8、堅衿をつけ裏堅衿を心持ちひかへる。

9、肩滑の上に裏堅衿の奥を折りてまつる。

11、釣紐(.....)を脊縫の處に脊縫圖の如くによくつける

10、表小衿と裏小衿とを合せて縫ひ端の圓き方は二耗離れた處を今一度縫ひ糸を少しく引きしめて表に返へし裏となる方を少々ひかへる。

12、表小衿の奥を折りて身頃にまつりつける。

13、軽くしめしたハンカチの上よりアイロンをかけて仕上をなす。



一、七八歳用男兒學生服上衣ノ裁縫 (左圖ニヨル)

但シ1、穴カバリ、釦ノ位置ハ糸標

2、ボケツトハ假附

出来上り圖(夏服)

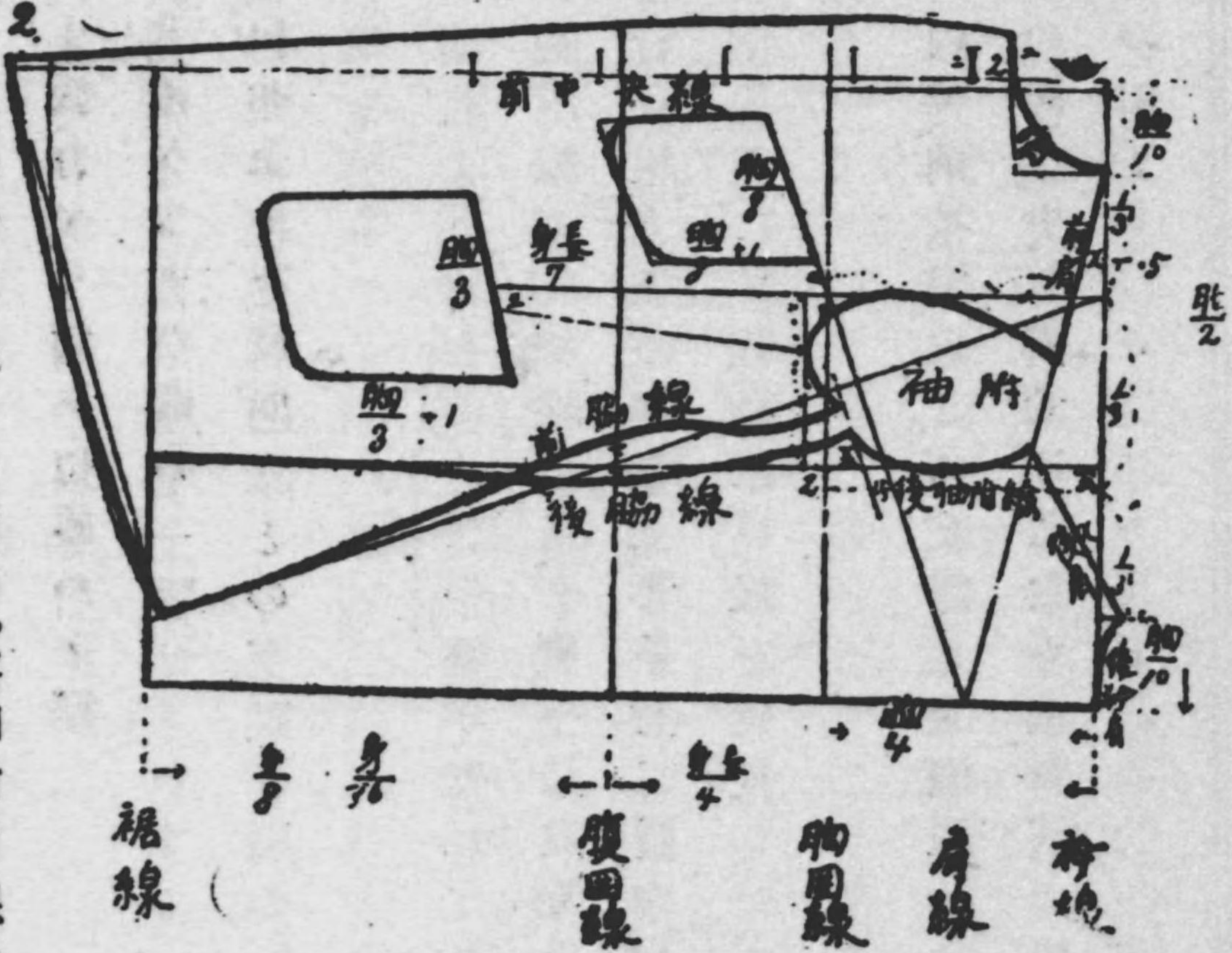


解答

一、身頃の製圖

- 1、背の線を引き右端に衿の線を引く。
- 2、衿の線より $\frac{1}{4}$ 図に取り其中央を肩の線とし次に衿の線より $\frac{1}{4}$ 図に取り

- 3、胸圍線にて $\frac{1}{2}$ 図に六糶を加へて取り裾口迄垂直線を引く。
- 4、前中央線より $\frac{1}{4}$ 図に取り衿の線まで垂直線を引く。
- 5、背の線と前中央線より $\frac{1}{4}$ 図後方に取りたる點とを三等分し前袖
- 6、後衿肩を $\frac{1}{10}$ 図に取り $\frac{1}{4}$ 図出して後衿肩を列る。



裾口線を $\frac{1}{10}$ 図に $\frac{1}{4}$ 図を加へたるものに取り各點より垂直線を引く。

3、胸圍線にて $\frac{1}{2}$ 図に六糶を加へて取り裾口迄垂直線を引く。

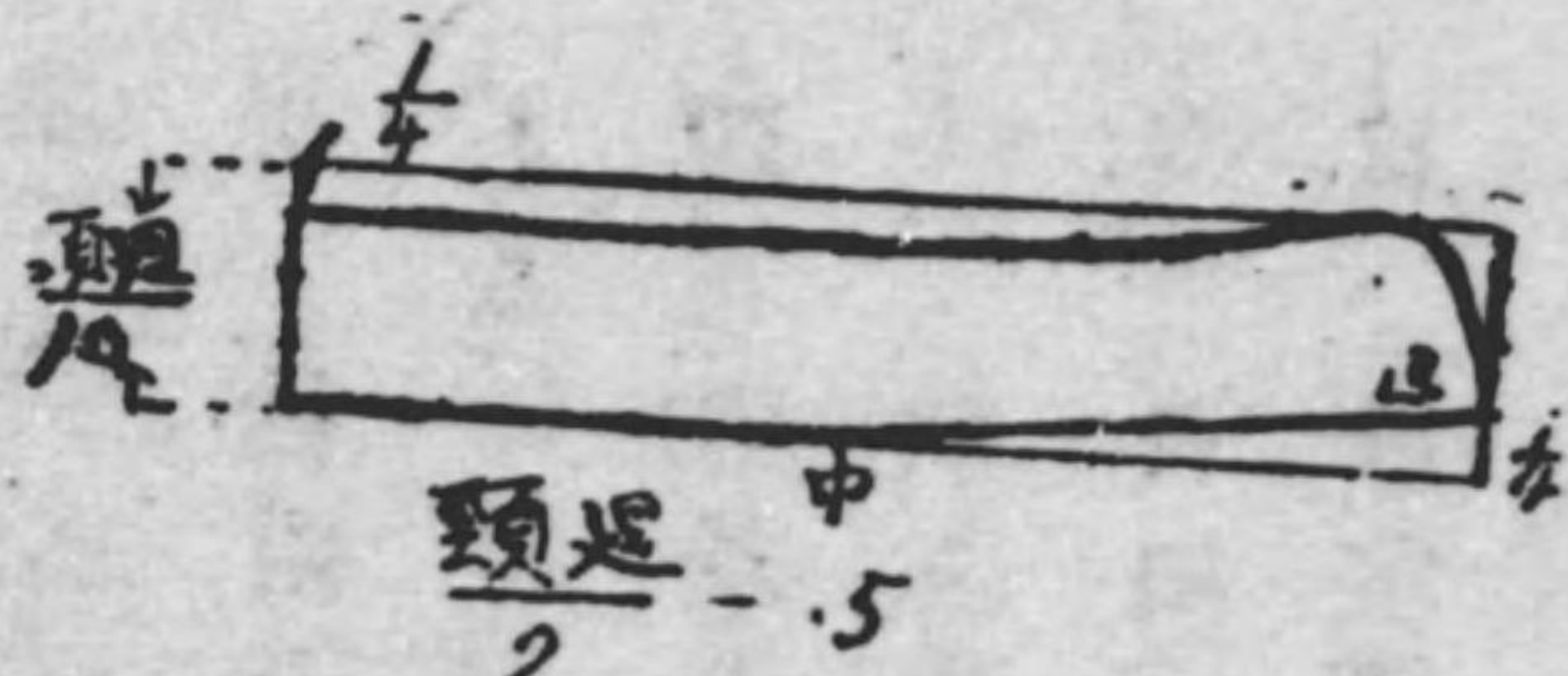
4、前中央線より $\frac{1}{4}$ 図に取り衿の線まで垂直線を引く。

5、背の線と前中央線より $\frac{1}{4}$ 図後方に取りたる點とを三等分し前袖

6、後衿肩を $\frac{1}{10}$ 図に取り $\frac{1}{4}$ 図出して後衿肩を列る。

- 7、前衿肩と頸を¹⁰宛に取り頸を一種半位列る。
- 8、前衿肩の點と肩の點とに線を引く。
- 9、後袖付け線と肩の線を引く。
- 10、後肩幅より前肩幅を一種せまくする。
- 11、前袖付け線と胸圍線との交點と肩の點とに線を引き其より一種半離れて並行線を引く。
- 12、胸圍線より裾口の方に一種半離れて並行線を引く。
- 13、後袖附線より斜線上に一種半に取り後袖付けを割り次に前袖付け線より後袖付け線までの間を三等分して圖の如く袖附を列る。
- 14、腹圍線上にて後袖付け線を延長したる線より前後に一種宛に取り脇の線を引く。
- 15、衿線と前袖附線との交點と腹圍線と後袖附線との交點とに線を引く。
- 16、前後の脇丈を同寸法になし前衿肩の點を中心前脇丈の裾口を半径として弧を引く。

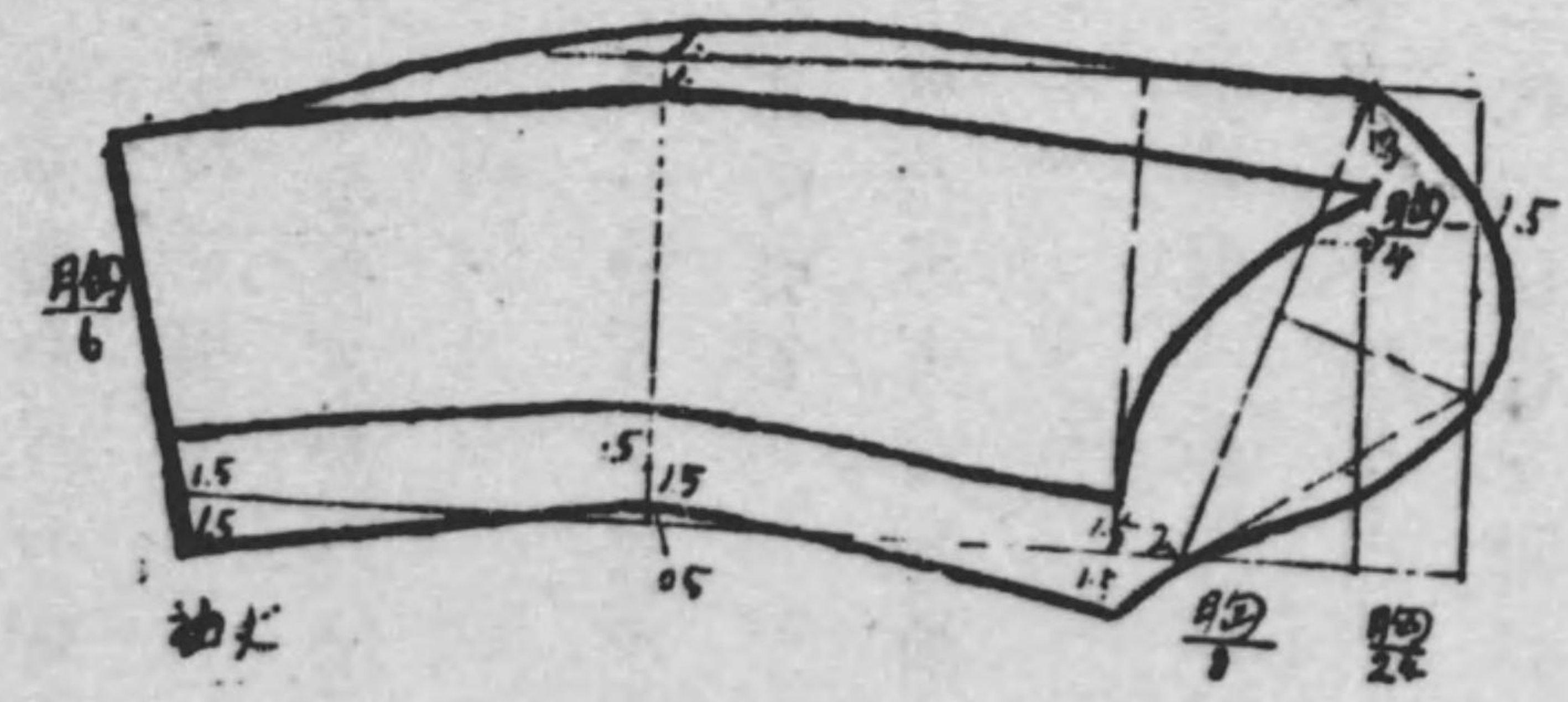
- 17、前中央線上にて弧より二種¹⁰の所に前裾口點を取り裾口線を引く。
 - 18、前頸列の¹⁰の點にて前中央線より二種頸の線を引き延し次に胸圍線上にても腹圍線上にても二種宛に取り裾口にては一種にとりて線を引く。
 - 19、胸のポケットを前袖附線より二種離れて¹⁰の口開とし丈を口開より一種長くす。
 - 20、脇のポケットは前袖附線を延長して胸圍線より¹⁰のところ裾口線に並行に¹⁰の口開とし丈を口開より一種長くす。
 - 21、脇クセは前袖附線と前袖付の列りの止りとの中央と脇ポケットのところににて前袖附線より脇の方へ三種離れて線を引き其線をクセとする。
 - 22、釦穴の位置は上より二種下つて前端より一種入つて二種の穴を明け最下の穴は脇ポケットと並行の高さにし其間を四等分して三つ穴を明ける。
- 二、カラーの製圖
- 1、横に線を引き其線を¹⁰より半種減じたるものにし兩端に垂直線を引く。



- 2、カラー幅を¹⁰とし更に横の線を引く。
- 3、右端にてカラー幅の¹を下より取りカラー丈の中央と結びて線を引き其線に直角なる線を出す。
- 4、左端にて幅の¹を上より取りカラーの丈の中央まで真直に線を出し右端とつゞける其角を半程位丸くす。

三、袖の製圖

- 1、横に一線を引き右端に垂直線を引く。
- 2、初の點より²にとり次に初めの點より^αにとり其點より二種にとり次に初めの點より袖丈とり袖丈の中央にも點を取り^α及び袖丈の點をのぞきて他點より垂直線を出す。
- 3、^αの點より斜に^αにとりて直線を引き其中央をとりて直角線を引き其線の右端の線と交りたる點と



二種の點とを結ぶ。

- 4、袖附の點及袖丈の點にて横の線より上下に一程半にとり袖丈の中央點にて横の線より半程にとり更に三程に取り此三點を結びて線を引く。
- 5、袖丈のところに三點を結びたる線に直角に袖口の線を引き横の線より^αに取る。
- 6、^αの點より垂直線を出し袖丈の中央線上にて上下に一程つゝ取り次に^αの點より三程内側に取りて袖山の線を内袖と外袖とに引く。
- 7、袖附を圖の如くに列る(圖中の内側の方は内袖にして外側の方は外袖である。

四、布の裁ち方及餘裕の附け方

- 1、袖全体一種の縫代を附け袖口のみは二種半の縫代を附けて裁つ。
- 2、身頃は前身頃の前端を布目真直にして肩と裾口と二種の縫代を附け他は一種の縫代を附けて裁つ。
- 3、カラーは表は横布即ち布を幅二つに折つて裁つにて後を輪とし廻りに

一種の縫代を附ける裏は斜布にて表と同じ。

4、前見返しは前衿肩の¹⁰の點より肩の方へ二種に取り裾口は七種にし其點を結びて見返し幅とす。

5、肩當の丈は胸圍線までとす。

五、仕立方

1、前身頃に見返しをつけ(上下の角はまるくする)表に返し半種の深さに押へミシンをかける。

見返しの他端を折り表から押へミシンをかける。

2、後の中央即ち脊を合せ左の方に折つて表から押へミシンをかける。

3、前後の脇を合せ後の方に折り表からミシンをかける。

すべて裁目は一方を折つて他方の布端を包み押へミシンをかける。

4、裾は折代を折りまつりぐけ或は表からミシンをかける。

5、肩當の裾を二つ折になしミシンをかける。

6、肩合せは後身頃と肩當とで前身頃を挟むで縫ふ。

7 袖縫は外袖と内袖との腋の方を合せてミシンをかけ縫目は外袖の方に返して表から押へミシンをかける。袖口の縫代の二種半のうち半種を折り更に二種折つてまつり附ける。袖下を袋縫ひにする。

8、袖附は袖附の山の方を袋糸で縫ひ縮め袖下の縫目が身頃の合標に行く様に待ち針を打つて袖のすはりを見斜切を身頃の方にあて、ミシンをかけ斜切の他方を折つて縫目にまつりつける。

9、衿芯のキャンパスを衿の型紙通りに裁ち裏衿と合せ横に三種位の平行にミシンをかけ前兩端に鈎ホックを二つ(左に鈎右に輪の方)をしつかりとちつけるこの裏衿と表衿とを合せ周圍を縫つて表に返し半種の深さに押へミシンをかける。

10、衿附は表衿を衿肩の所に合せてミシンをかけ縫目を割り裏衿を衿肩廻りにまつりつける。

11、ポケットは製圖のところにて大きさ及位置を示した通りに廻りを折つてミシンでつける。

12、 卸及穴膝は製圖の所で位置を示した通りに前の中央線を卸の中心とし
上前は前の中央線を穴の左端として穴膝をなす袖の鉛は袖下の縫目より外
袖の方へ一厘入り袖口より三厘入りて一個更に卸の大きさをだけ離して一個
附ける。

13、 仕上をなす。

第三日 七時間

一、本裁女袴羽織左半身ノ裁縫

仕立上寸法

身丈 九八センチ内外

繰越 一五センチ

袖丈 六〇〇センチ

其他寸法ハ普通

解答

仕立上寸法 與へられた寸法の外に

袖口	二三センチ	袖附	二五センチ
袖幅	三二センチ	後幅	七八センチ
前幅	一八センチ	衿肩明	一〇二センチ
乳下り	四四センチ	前下り	四センチ
裾幅	六八センチ	衿幅	六八センチ
衿	六二センチ		

表布

常幅半反



2 (上り袖丈 + 縫代 = 袖用布)

上り身丈 + 三衿縫代 + 前下り + 衿肩廻し + 2繰越 + 衿先縫代 = 衿用布

【総用布 - (袖用布 + 衿用布 + 前後の差)] + 2 = 後裁切身丈

後裁切身丈 + 前後の差 = 前裁切身丈

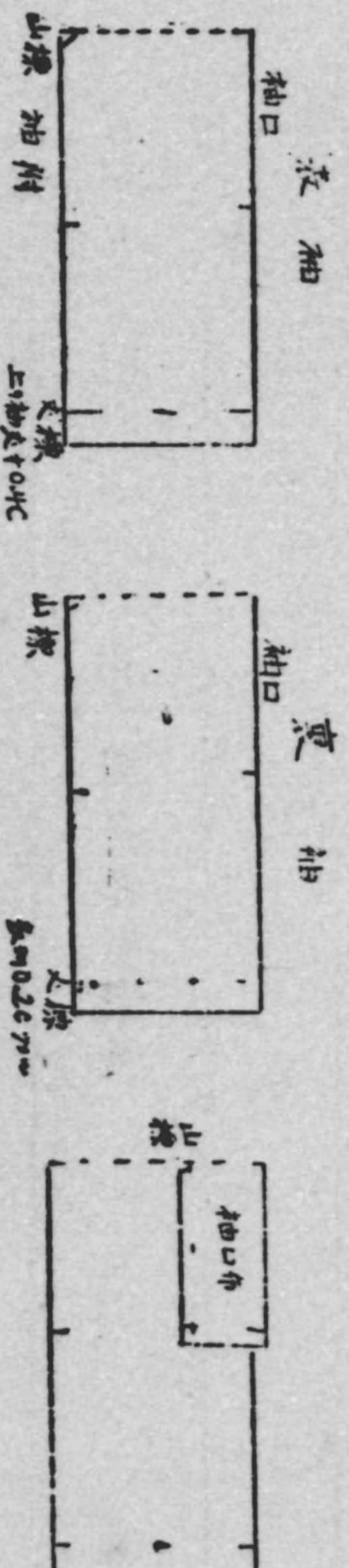
裏 布



2 (上り袖丈 + 縫代) = 袖用布

(總用布 - 袖用布) ÷ 2 = 前後の身丈

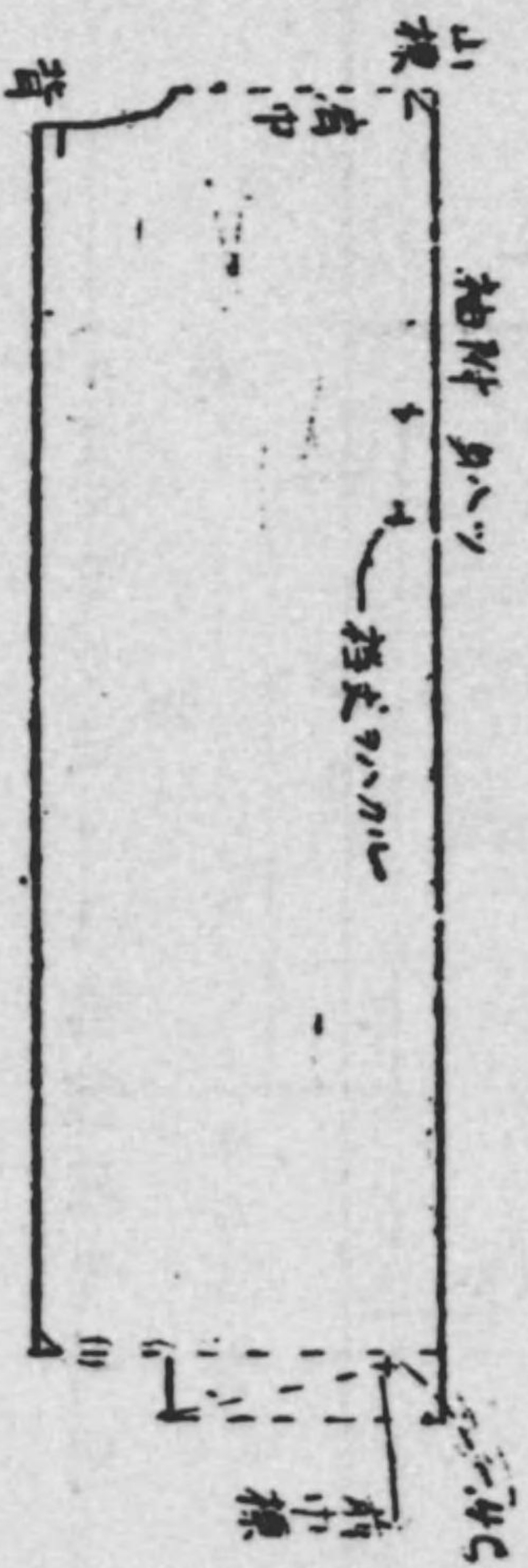
脇縫ひ



(1) 表身頃の丈を定めて裏の方に折る
裏身頭を上にする



(ハ) 繰越をつけ前身の上に後身を折り返して
前下り標をつける



(=)後身を返して前幅標をする。



袖口布

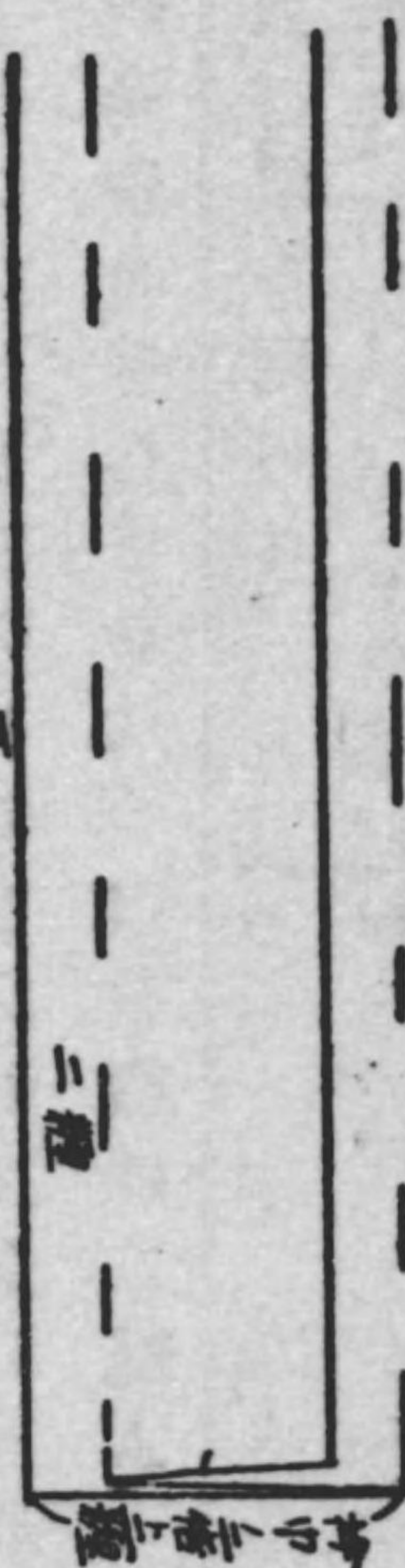


1、裏袖に袖口布を掛け表袖の袖口を縫ひ合せ二耗の被せをかけて表に折

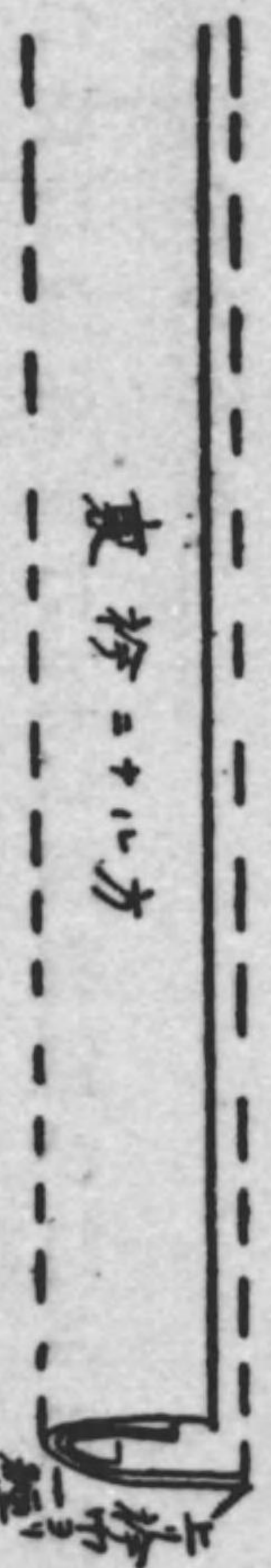
縫ひ方

袖の折り方

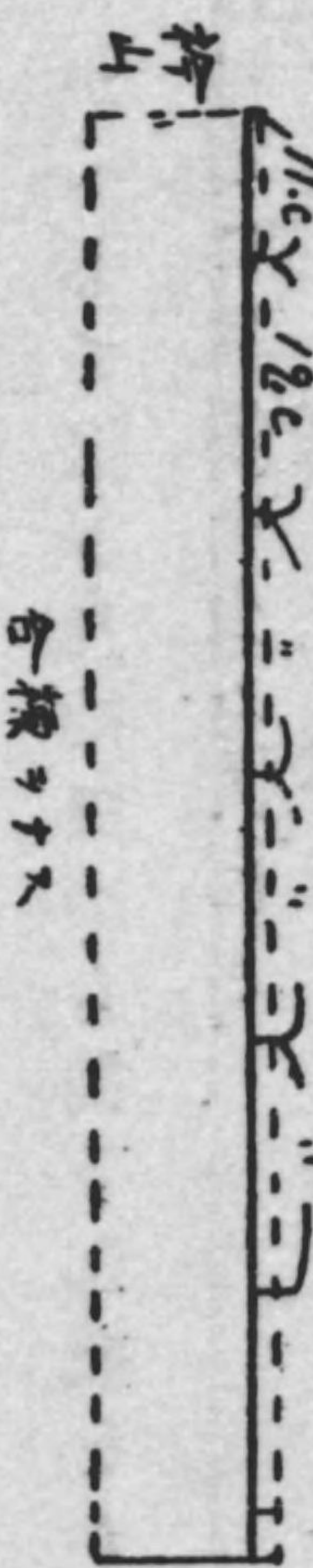
第一圖



第二圖



第三圖



るのみならず、益々美をなすべきものであることは、日本國民の等しく抱く強い信念である。而して問題中の「天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ」なる語は、一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ」を受けたもので、一朝國家に事あるときは君國のために奉じ國体と一体である皇位の彌榮えに榮えまさんことを力めねばならぬと宣ひたまふたのである。

我等がかゝる道を如何に實行すべきかといふに、國家に一朝ことあるときは上下一致して各自の分に應じて最善の努力をなし、國家の獨立を完全にし進んでは國威を發揮するやう努むべきであるが、然しかゝる場合に國家が十分の威力を發揮することの出来るのは平生に於いて十分の用意があつてのみ可能なことであるから上下一致して産業に教育に最善の努力をしてその發達を計り國力民力の充實を致さねばならぬ。之がまた皇運を扶翼する所以である。

問題二 國民精神作興ニ關スル詔書中「醇厚中正」ノ意義ヲ説明シ且之ニ就キテ感ズル所ヲ述ベヨ、

解答

國民精神作興に關する詔書中の「醇厚中正」なる御言葉は「浮華放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ」と宣へるものであつて醇朴、温厚などの熟語がある如く篤實な態度をいひ、中正は、一方的な偏見に捕はれることなく中道をいふ。

現今の社會状態を見るにわが國舊來の風は次第に廢されて道徳に於ても風俗に於ても共に新しきを競ひ、古人の努力の跡を見ずしてその成果の華やかさにあこがれ、刻苦精勵を避けて享樂を求むる風が盛んである。且つ又一方思想に於いても外國に發生發達せる唯物思想社會思想等が傳來するまゝに我が國情も考へず其れに心酔するのみか、往々之を實行實現せんとするものさへある。然し是等は國家社會の發展が國民上下一致努力するより生れたことを忘れたものであり、外國の思想風習も、三千年の歴史を経て成長發達せるわが國民精神の糧として適當に取捨しよく消化し利用してのみ有用であることを知らないから出たことである。故に是等の風を矯めて醇厚中正に歸せしむることは、我國現下の社會情勢より見ても最も急務とする所である。詔書の

御趣意も亦之にあるであらう。

問題三 反省ノ徳ノ重ンズベキ理由ヲ説明セヨ

解答

人は理想を思慕追求する心もあるが又他方には本能的衝動的に現はれる身体的心理的慾望がある。理想的要求は常に道に適ふやうに希つても、本能的衝動的慾求はそれを邪道に導くことが少くない。殊に人は動もすれば、安易を求め、享樂に走り、怠惰に陥り或は、他を羨み憎みなどするものである。故に理想を追求せんとする心を益々明かにすると共にその心を以て本能的衝動的慾求を反省しその非を非とし是を是として修徳の道に精進せねばならぬ。従つて反省は修徳上一つの鞭の如き役目をするものである。論語の中にも曾子が「われ日に三度わが身を省みる」と云つてゐるのも修徳者がもたねばならぬ態度である。

問題四 國民道徳ノ見地ヨリ普通選舉ノ精神ヲ説明セヨ

解答

わが國では古來、民を御實と云ひ、政は民を本とすといひ、天皇は民の心をはかつて政をなし、民は天皇の御心を心として君國に仕へて來た。此の精神は

明治初年の五ヶ條の御誓文には「廣く會議を起し萬機公論に決すべし」と仰せられてゐる。是を以て之を見れば、我が國では古來、萬民の心を基として政治を行つたと云ふべきで此の精神が、つまり普通選舉の精神であるべきである。普通選舉は從來納稅等に依つて制限してゐた選舉權を撤廢して選舉行使權の能力あるものに對してすべて權利を與へたものである。故に普通選舉に依つて權利を得た國民はすべて天皇の大御心をよく体し、國民民福を基とし其權利を行使しよくその精神を發揚すべきである。

教育大意 (二時間)

問題一 教授上問題法ノ價值ヲ論ゼヨ

解答

問題法は開發教授に於いて最も重要な教式とされたものであつて、その教授上の價値は、發問に依つて兒童に思考すべき適當の題目を與へ、疑問を起させ記憶をよび起し、思考を鍊り、注意を促す上に有効であるばかりか一旦學習した事項に對して理解の程度、誤解の有無を檢するためにも亦よい方法である。然し其の運用法が適當でないとき兒童の思考を却て斷片的にし、系統的な

学習を妨げることもある。

問題二 左ニツイテ知レル所ヲ記セ。

暗示

ある一つの刺激が與へられて其れが感覺知覺された場合、自然の結果としてそれを何か関連のある一定の精神活動又は動作が起ることがある。此の場合後者に對して前者即ち刺激を暗示といふ。

演繹推理

一般的な原則(法則)を特殊な場合に適用するを演繹的推理といふ。

(例) 温血胎生の動物を哺乳類といふ。(大前提)

猫は温血胎生の動物である。(小前提)

故に猫は哺乳類である。(結論)

教育的教授

教育的教授なる語は十九世紀のドイツの教育學者ヘルバルトの熱心に唱へたところのもの、兒童の道德的品性の陶冶に與る様な教授を教育的教授とい

ふ。

問題三 宿題ノ教育的意義ヲ明カニシ實際上ノ注意ニ及べ。

解答

宿題ノ教育的意義として先づ第一に挙げねばならぬのは、兒童が家庭にある時間を有効に學業に親しませることが出来る。兒童は動もすれば家庭にあつては學業を放擲し勝ちのものであるが宿題があるがために其のことがなく學業に親しむ風を生ずる。

次に宿題の練習に依つて既習の事項を一層明確に了解し、記憶し、或は次の學習の豫習ともなつて學校に於ける學習を有効にする。

第三に家庭の人々をして學校に於ける兒童の學習の情態、學習的方法、學習進程、學習題目等を知らしめ、兒童の學業指導を便ならしめる。

第四に宿題に依つて學習が有効になされる様になれば、従つて學習も進捗し全体の教授の効果を擧げることが出来る。

然し是等も實際上十分の注意を拂つて始めて良結果を擧げることが出来るものであるから左記の如き實際上の注意を要する。

- 1、宿題は學習者の程度及び餘裕ある時間に應ずる分量に止め徒らに困難過重にしてはならぬ。
- 2、宿題はなるべく復習問題を主とし豫習問題は上級生に限つて適當な題目を選んで課すべきである。
- 3、家庭の事情には殊に注意しないと徒に家庭を煩はし又學習者を苦しめ教育全体の効果を減殺することもある。

昭和三年七月十四日印刷
 昭和三年七月十七日發行

定價金壹圓

編輯兼發行所 渡邊女學校出版部

代表者 渡邊 滋

印刷者 杉 眞 一

印刷所 日 興 舍

發行所 渡邊女學校出版部

電話小石川 三七五八番
 七三六九番
 七三六八番
 振替貯金口座東京一九八二〇番

發 行 圖 書 目 録

書 名	定 價	内 容 説 明
裁縫の各部 単衣	二 圓	単衣の藤原沿裁ち方縫ひ方等の一切を詳細に説明した専門的裁縫教育程度の教科書参考書に適當。
拾・綿入の部	二 圓	拾綿入に關する全部を説明してある。専門教育程度の教科書参考書に適當。
肌着・帯の部	二圓五拾錢	上の二書物と同目的にて著述した書物、肌着と云ふ肌着、帯と名のつく帯は悉く擧げてある。
羽織・袴の部	二圓五拾錢	上の三書にこの羽織袴を加へて和服の裁縫として完備するもこの三書で本邦裁縫界の定本ともいふべきものである。
高等裁縫及雜部	三圓五拾錢	普通和服以外特種の和服に就いて詳しく解説したもので裁縫教師の種本である。
東帯・五衣の部	二 圓	東帯五衣は本邦特有の文化の表現物である。畫家も風俗研究者も常に参考してゐる本邦唯一の書。畫家も風俗研究者が多年米國にあり根本から研究し解剖學上からの割出に依つて學問的に説明した書。
男子洋服の部	二 圓	内容の充實を以て此の種類書中第一の好評を得たるも、昭和三年内容の殆ど全部を新流行型に改めたり。
専攻兒童洋服教科書 上 下 二冊	各 冊 二圓五十錢	
中等新裁縫教科書 全 三冊	各 冊 二圓五十拾錢	中等教育用として最新研究の結果を集め、メトリル法を本位として編纂した教科書。

318
415

